本江畑田Ⅰ遺跡発掘調査報告（４）

― 分譲住宅造成に伴う埋蔵文化財発掘調査 ―

2012年

富山県射水市教育委員会

本江畑田Ⅰ遺跡発掘調査報告（４）

― 分譲住宅造成に伴う埋蔵文化財発掘調査 ―

2012年

富山県射水市教育委員会

調査区遠景（北から）

調査区全景（北東から）

調査区全景（南西から）

SB01（北東から）

巻頭写真2

出土土器

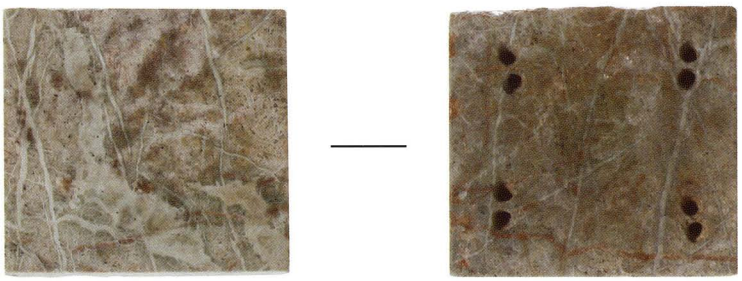


表　　裏

巻方（石製腰帯具）

例　　言

1　本書は、富山県射水市大門本江地内に所在する本江畑田Ⅰ遺跡の発掘調査報告書である。

2　調査は、分譲住宅造成に伴う道路建設に先立ち、射水市教育委員会と伊勢住建株式会社、株式会社アーキジオの三者間で協定書を取り交わして実施した。

3　調査の期間・面積は次のとおりである。

［試掘調査］　平成23年８月17日から平成23年８月22日　　調査対象面積　2,966㎡

［本発掘調査］　現地調査　平成23年10月17日から平成23年12月17日　面積　　310㎡

遺物整理　平成23年12月９日から平成24年６月25日

4　調査の体制は次のとおりである。

［試掘調査］　射水市教育委員会（文化・スポーツ課）　主任　尾野寺克実

主任　田中明

主任　金三津英則

主任　松山充宏

［本発掘調査］　監理　射水市教育委員会（文化・スポーツ課）

監督員　　主任　尾野寺克実、主任　金三津英則

調査　株式会社アーキジオ（文化財部）

調査員　　専門調査員　新宅輝久、調査員　小林修

5　本書の編集・執筆は、監督員及び調査員の協議のもと、第1章第1節を金三津、他を小林が担当した。

6　発掘調査及び遺物整理の従事者は次のとおりである。（五十音順）

［発掘調査］　青山義雄　近藤智秀　島田一郎　中島忍　中山秀二　信田一夫　林憲彦

宮田靖博　山本明義

［遺物整理］　佐野睦美　中山佳子　渡辺賀世子

7　調査で得た図面・写真等の記録及び遺物は射水市教育委員会で保管・管理し、遺物には遺跡名を略号（DHH-I）で記入している。

凡　　例

1　本書に掲載の遺構図の方位は真北、水平基準は海抜高である。

2　座標は公共座標（世界測地系）を使用し、南北をＸ軸、東西をＹ軸とする。

3　遺構は、遺構の種別を示す以下の略号記号と番号の組合せで表記する。

SB（掘立柱建物）　SD（溝）　SI（竪穴建物）　SK（土坑）　SP（ピット・柱穴）

NR（自然流路）　SX（性格不明遺構）　P（SB・SIの柱穴）

4　全体平面図の縮尺は1/250、遺構平面図及び断面図の縮尺は1/60・1/40、遺物実測図の縮尺は土器1/4を基本とし、縮尺の異なる遺物はスケールで個別にその縮尺を表記した。

5　出土遺物の番号は、遺物実測図・遺物観察表・写真図版ともに対応する。

6　本書での土層及び遺物の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』に準拠する。

7　挿図中の第１図には国土地理院『1:50,000地形図・富山』（平成19年１月１日発行）を使用した。

8　遺物実測中の土器断面等の色調は次のことを表す。

■：須恵器

目　　次

巻頭写真

例言・凡例

第１章　調査の経過…… 1

　第１節　調査に至る経緯…… 1

　第２節　発掘作業の経過…… 1

第２章　遺跡の位置と環境…… 2

第３章　調査の方法と成果…… 5

　第１節　調査の方法…… 5

　第２節　基本層序…… 5

　第３節　遺構と遺物…… 6

　(1) 弥生時代後期終末～古墳時代前期初頭…… 6

　(2) 奈良～平安時代……13

　(3) 近世以降……21

　(4) 時期不明……21

第４章　総括……21

写真図版

報告書抄録

挿　図　目　次

第１図　遺跡の位置と周辺の遺跡…… 2

第２図　調査区…… 3

第３図　全体平面図…… 4

第４図　基本層序…… 5

第５図　SB01、SB02、SD02、SD04、SD05、SD08平・断面図… 7

第６図　SD09、SD10、SD11、SD13、SK04、SP22、SP23平・断面図… 8

第７図　SD12、SD14、SX01平・断面図…… 9

第８図　SI01平・断面図……11

第９図　SD07、SK02、SK03、SK05、SP13、NR01平・断面図……13

第10図　SP01、SP02、SP04～12、SP14～21平・断面図……14

第11図　SD01、SD03、SK01、SP03平・断面図……15

第12図　遺物実測図（1）……16

第13図　遺物実測図（2）……17

第14図　遺物実測図（3）……18

第15図　富山県の古代腰帯具出土遺跡の位置……22

第16図　富山県出土の主要な古代腰帯具（銙帯・石帯）……23

表　目　次

第１表　ピット一覧表……14

第２表　遺物観察表……19

第１章　調査の経過

第１節　調査に至る経緯

平成23年７月、伊勢住建株式会社から、射水市大門本江地内に位置する周知の埋蔵文化財包蔵地、本江畑田Ⅰ遺跡の範囲内において宅地造成計画の照会があり、平成23年８月４日に原因者から文化財保護法第93条第１項の届出を受けた。

同年８月17日から８月22日にかけて、射水市教育委員会が主体となって事業計画地約2,966㎡を対象とした試掘調査を実施し、その結果、約1,957㎡において弥生時代・古代・中世の遺構・遺物を確認した。原因者である伊勢住建株式会社との協議の結果、現状保存が不可能となる計画道路部分約310㎡において、原因者が費用を負担し、射水市教育委員会の監理のもと、民間発掘業者へ業務を委託して記録保存を目的とした本発掘調査を実施することとなった。

その後、同社において株式会社アーキジオを発掘調査担当に選定し、伊勢住建株式会社と株式会社アーキジオ及び射水市教育委員会の三者間で協定を締結して、10月17日より現地における発掘調査を開始した。

第２節　発掘作業の経過

〔10月〕

17日：現況を確認する。

20日：基準点測量及び調査区境界測量を実施する。

24日：調査区の東側（道路側）から土木機械による表土掘削を開始する。

27日：発掘道具及び機材を搬入し、上層地山面からのSD01の検出及び手測図化、掘削及び遺物取り上げを行い、土木機械による表土掘削を終了する。

31日：仮設事務所、グリッド杭（5m×5m）を設置する。

〔11月〕

１日：人力による掘削作業を開始する。

７日：調査区東側から、基本層序Ⅵ層（遺物包含層）の掘削及び遺物取り上げを開始する。

８日：基本層序Ⅶ層（下層地山）面における遺構検出を開始する。

17日：検出遺構の掘削及び断面の手測図化・遺物取り上げを開始する。

26日：完掘遺構の平面測量を開始する。

27日～30日：検出遺構の掘削及び断面の手測図化・遺物取り上げ、完掘遺構の平面測量を実施する。

〔12月〕

９日：調査区全体清掃及び全景写真を撮影し、遺物洗浄を開始する。

10～11日：遺構埋め戻し及び壁面補強対策を実施する。

12～14日：発掘道具及び機材を片付け、仮設事務所を撤去する。

17日：鉄板及び安全対策ロープなどを片付け、現地での作業を完了する。

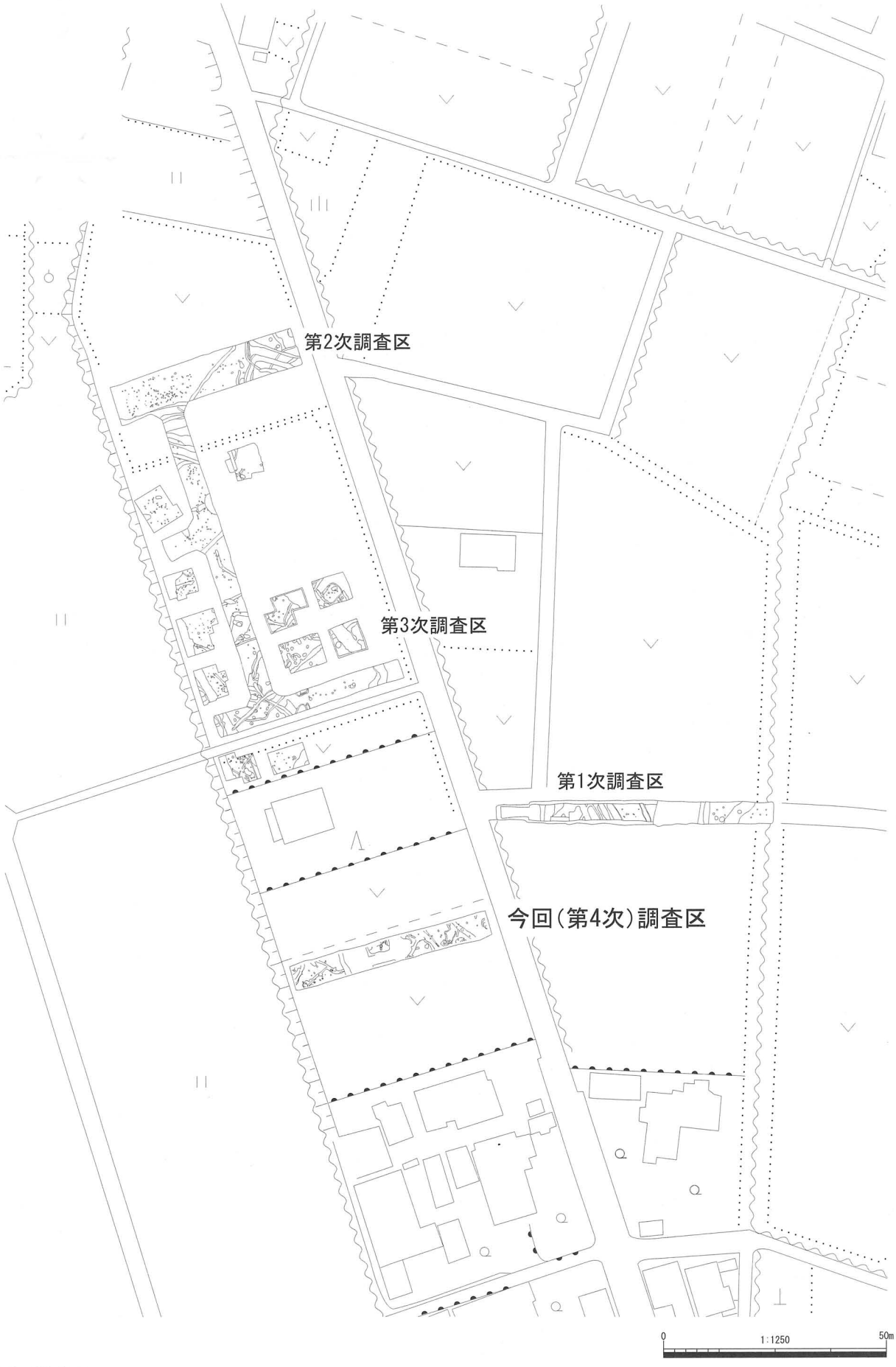
第２章　遺跡の位置と環境

本江畑田Ⅰ遺跡は、富山県射水市大門本江地内に位置する。射水市は、東に富山市、西に高岡市、南に砺波市と接し、北に富山湾、中央に射水平野、南に射水丘陵を配する地形で、標高０～140ｍを測る。

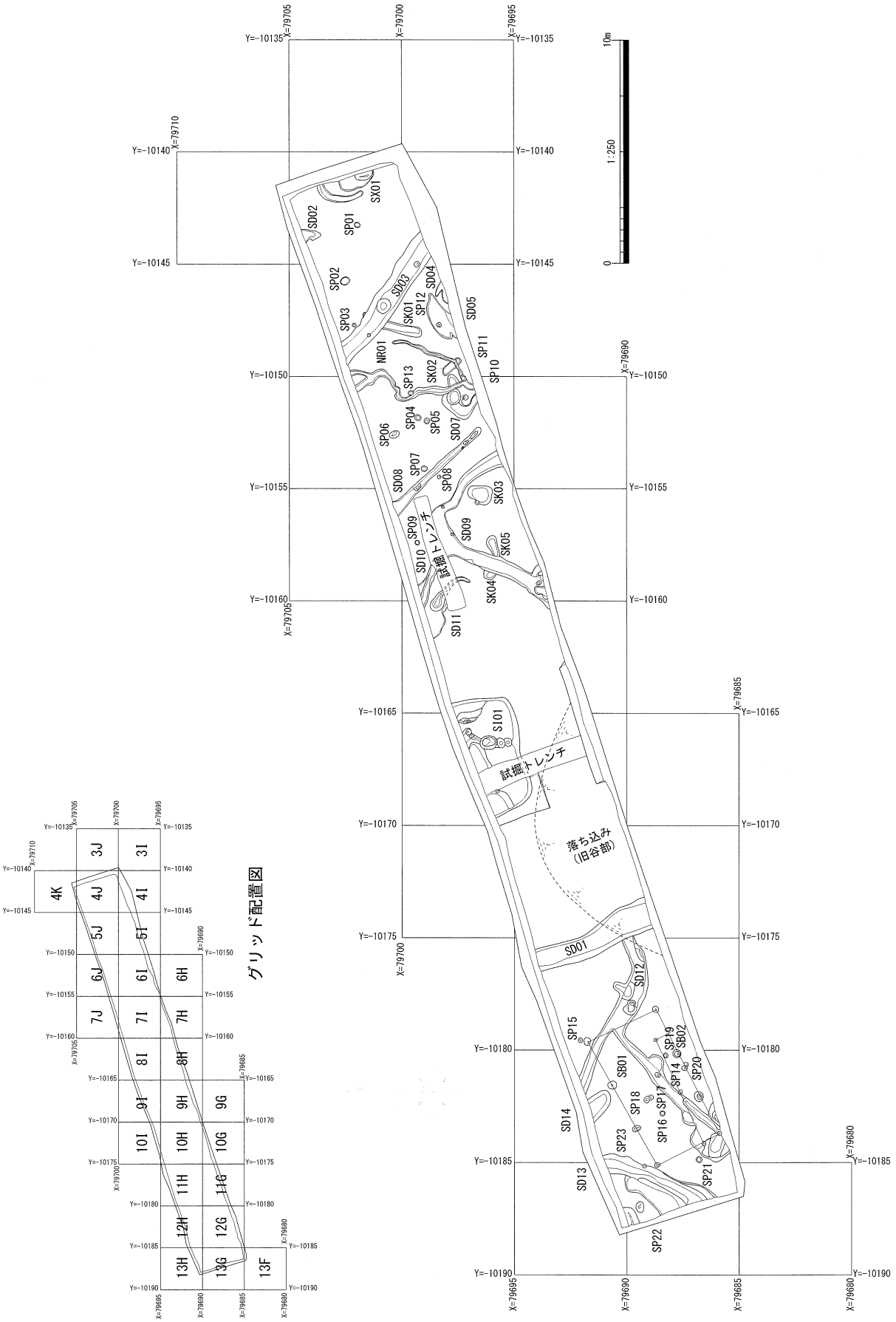
本遺跡の立地する射水平野は、東の神通川と西の庄川によって挟まれた東西約11km、南北約７kmの範囲の低湿地帯で、河川によって運ばれた土砂や粘土・礫が堆積する複合扇状地性三角州沖積平野である。およそ１万年前の縄文海進による海面上昇の後、気候の変化（寒冷化）に伴って出現した湿原に、河川の澱みによる沼沢地が形成されて、湿原植物が泥炭となって堆積することで、平野が形成されたものと考えられている。この射水平野の特に本遺跡が立地する地域には、弥生時代後期～中世まで続く二口油免遺跡をはじめとした弥生時代後期からの集落や墓域など、多くの遺跡が存在しており、かつての生活の舞台が、この周辺で営まれていたことが理解でき、本遺跡もそのうちのひとつと言える。

本遺跡は、庄川右岸の扇状地上（標高8.5～9.1m）に立地し、地形が段丘状にやや高まる先端部付近に位置する。本遺跡では、平成８（1996）年度に県営ほ場整備事業に伴う第1次調査（面積500㎡）、平成16（2004）年度に土地区画整理事業に伴う第２次調査（面積1,346㎡）、平成17（2005）～18（2006）年度にかけて個人専用住宅建築に伴う第３次調査（面積804㎡）が実施されている。過去３次の調査によって、本遺跡は、弥生時代後期後半～終末にかけての玉作工房をもつ集落であることが解っており、今回はそれに続く第４次調査である。

第１図　遺跡の位置と周辺の遺跡



第２図　調査区


X=79705
X=79700
X=79695
X=79710
X=79690
X=79685
X=79680
Y=-10135
Y=-10140
Y=-10145
Y=-10150
Y=-10155
Y=-10160
Y=-10165
Y=-10170
Y=-10175
Y=-10180
Y=-10185
Y=-10190
10m
1:250
0
SX01
SD02
SP01
SP02
SD03
SD04
SP03
SK01
SP12
SD05
NR01
SP13
SK02
SP11
SP10
SP04
SP05
SD07
SP06
SD08
SP07
SP08
SK03
SP09
SD09
SK05
SD10
試掘トレンチ
SK04
SD11
S101
試掘トレンチ
落ち込み
(旧谷部)
SD01
SD12
SP15
SB02
SP19
SB01
SP14
SP20
SP18
SD14
SP17
SP16
SP23
SP21
SD13
SP22
グリッド配置図
3J
3I
4K
4J
4I
5J
5I
6J
6I
6H
7J
7I
7H
8I
8H
9I
9H
9G
10I
10H
10G
11H
11G
12H
12G
13H
13G
13F

第３図　全体平面図

第３章　調査の方法と成果

第１節　調査の方法（第３図）

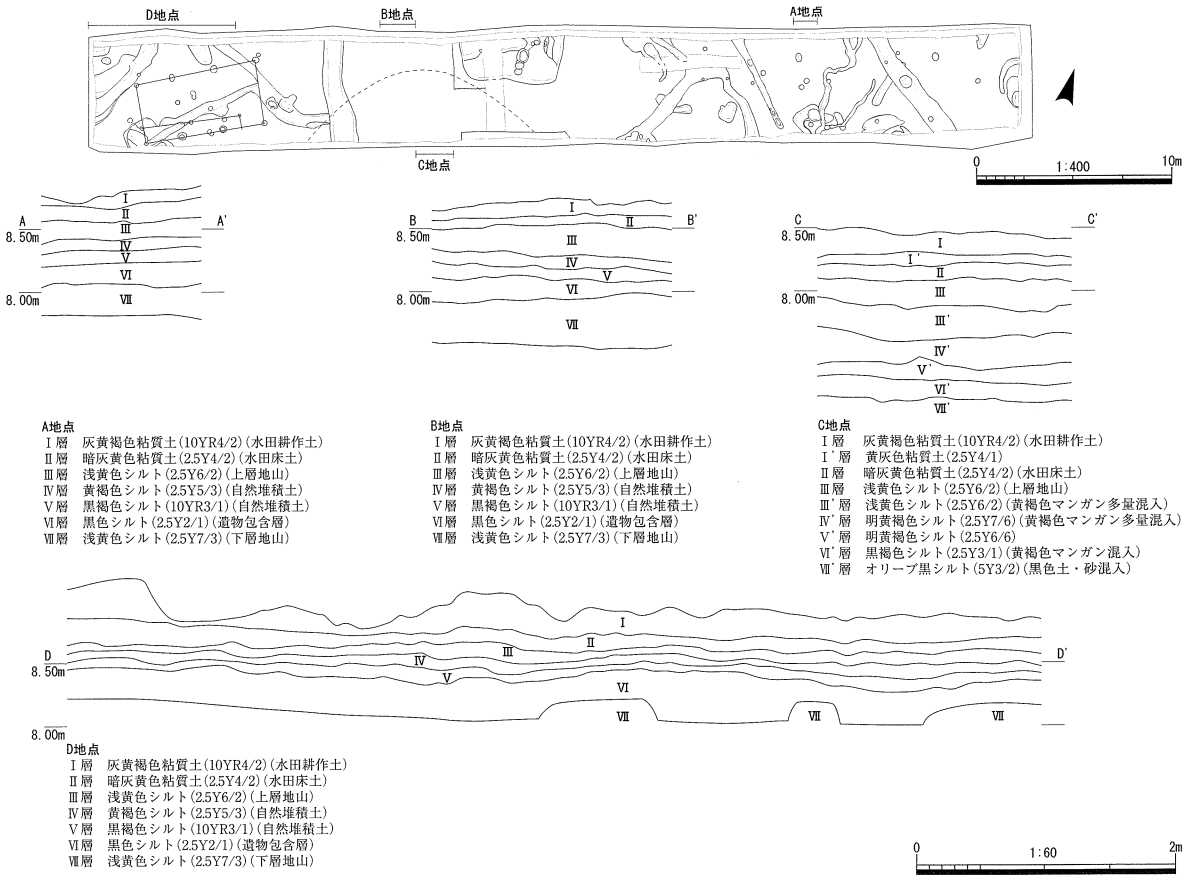
調査は面積310㎡であった。表土層はバックホーによる掘削を行い、遺物包含層から人力掘削とした。遺構検出面は１面（弥生時代後期終末～古墳時代前期初頭）であり、事業計画地全体に座標軸に基づいた５ｍ×５ｍのグリッドを設定し、Ｘ軸に南からA･B･C…のアルファベット、Ｙ軸に東から1･2･3…の数字を付してグリッド呼称としたうえで、遺構検出及び掘削、手測による平・断面図の図化を行った。

第２節　基本層序（第４図、写真図版４）

基本層序は、調査区の北壁３地点（A･B･D地点）、南壁１地点（C地点）で作成した。北壁では一定の安定した地層が確認できたが、南壁では調査区の中央付近を中心に大きく地層が落ち込み、南側に向かって古くは谷地形となっていたことが確認できた。

北壁A･B･D地点での基本層序は、上層から順に、Ⅰ層：灰黄褐色粘質土（水田耕作土）、Ⅱ層：暗灰黄色粘質土（水田床土）、Ⅲ層：浅黄色シルト（奈良～平安時代の遺構検出面）、Ⅳ層：黄褐色シルト（自然堆積土）、Ⅴ層：黒褐色シルト（自然堆積土）、Ⅵ層：黒色シルト（弥生時代後期終末～古墳時代前期初頭の遺物包含層）、Ⅶ層：下層地山（弥生時代後期終末～古墳時代前期初頭の遺構検出面）である。

南壁C地点での基本層序は、上層から順に、Ⅰ層：灰黄褐色粘質土（水田耕作土）、Ⅰ’層：黄灰色粘質土、Ⅱ層：暗灰黄色粘質土（水田床土）、Ⅲ層：浅黄色シルト（奈良～平安時代の遺構検出面）、Ⅲ’層：浅黄色シルト（黄褐色マンガン多量混入）、Ⅳ’層：明黄褐色シルト（黄褐色マンガン多量混入）、Ⅴ’層：明黄褐色シルト、Ⅵ’層：黒褐色シルト（黄褐色マンガン混入）、Ⅶ’層：オリーブ黒シルト（黒色土・砂混入）である。



第４図　基本層序

第３節　遺構と遺物

(1) 弥生時代後期終末～古墳時代前期初頭

１号掘立柱建物（SB01、第５図、第12図１・２、写真図版1、写真図版６－１、写真図版７－２）

調査区の西部南側、11G・11H・12G・12H・13Gグリッドに位置する。柱間は、３間×１間であり、長軸は約6.60m、短軸は約3.60mを測る。P1は平面が円形で直径約0.22m、検出面からの深さ約0.25mである。P2は平面が楕円形で長軸約0.39m×短軸約0.28m、検出面からの深さは約0.18mである。P3は平面が楕円形で長軸約0.39m×短軸約0.35m、検出面からの深さは約0.20mである。P4は平面が楕円形で長軸約0.35m×短軸約0.29m、検出面からの深さは約0.18mである。P5は平面が円形で直径約0.29m、検出面からの深さ約0.17mである。P6は平面が円形で直径約0.39m、検出面からの深さは約0.20mである。P7は平面が楕円形で長軸約0.45m×短軸約0.39m、検出面からの深さは約0.22mである。P8は平面が円形で直径約0.20m、重複するSD12底面からの深さは約7.0cmとなる。柱穴の堆積土は、炭化物を含む黒褐色粘質シルト（以下、「黒褐シルト」と呼ぶ。）が主体で、P3・P6・P8から土器破片が出土している。

P6から、有段高杯の杯部（1）、台付無頸鉢（2）が出土している。器形などの特徴から月影Ⅰ式に相当する時期のものと考えられる。

２号掘立柱建物（SB02、第５図、写真図版１）

調査区の西部南側、11G・12Gグリッドに位置する。３穴が等間隔で直列する柱穴列の形で検出し、SB01と同軸方向という点と北側への柱穴の配置が見られないことから判断して、南側及び西側の調査区域外への遺構の広がりが考えられる。柱穴と柱穴の間隔は約2.30～2.40mである。P1は平面が楕円形で長軸約0.21m×短軸約0.19 mで、重複するSD12底面からの深さ約0.16 mである。P2は平面が楕円形で長軸約0.21 m×短軸約0.19 m、検出面からの深さ約0.15 mであった。P3は平面が円形で直径約0.18 m、検出面からの深さは約0.15 mである。P1～3ともに柱穴としては小形である。遺物の出土はなかったが、柱穴の堆積土が黒褐シルトであること、SB01と同軸方向を示すことから、弥生時代後期終末～古墳時代前期初頭の遺構として判断した。

２号溝（SD02、第５図、写真図版１）

調査区の東部北側、4Jグリッドに位置する。北側の調査区域外への遺構の広がりが見られる。長さ約0.80 m、幅約0.40～0.65 m、検出面からの深さは約9.0cmであった。断面形はU字形であり、底面は湾曲する。遺物の出土はなかったが、堆積土が黒褐シルトであり、当該期の遺構と判断した。

４号溝（SD04、第５図）

調査区の東部南側、5Iグリッドに位置する。遺構の大部分が南側の調査区域外への広がりが見られた。検出面からの深さは約4.0cm、底面は平坦である。位置関係から、SD05と同一の遺構とも想定できる。遺物の出土はなかったが、堆積土が黒褐シルトで、当該期の遺構と判断した。

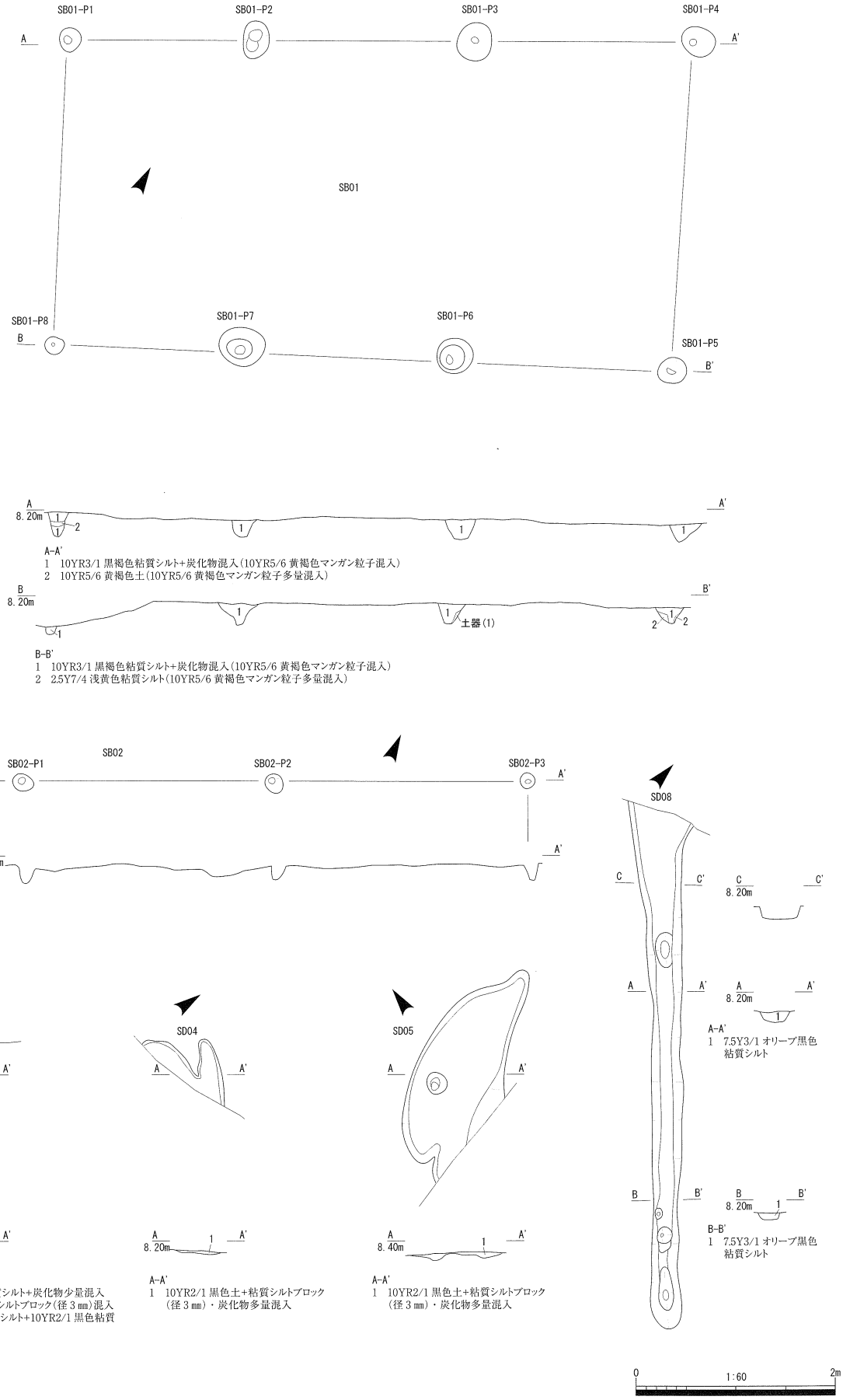
５号溝（SD05、第５図）

SD04と同じく5Iグリッドに位置する。南側の調査区域外への広がりが見られ、全体像は不明である。検出長は約2.30m、最大幅約0.95m、検出面からの深さは約1.0～7.0cmであり、底面は平坦である。遺物の出土はなかったが、堆積土が黒褐シルトで、SD04と一連の遺構とも想定でき、当該期の遺構として判断した。

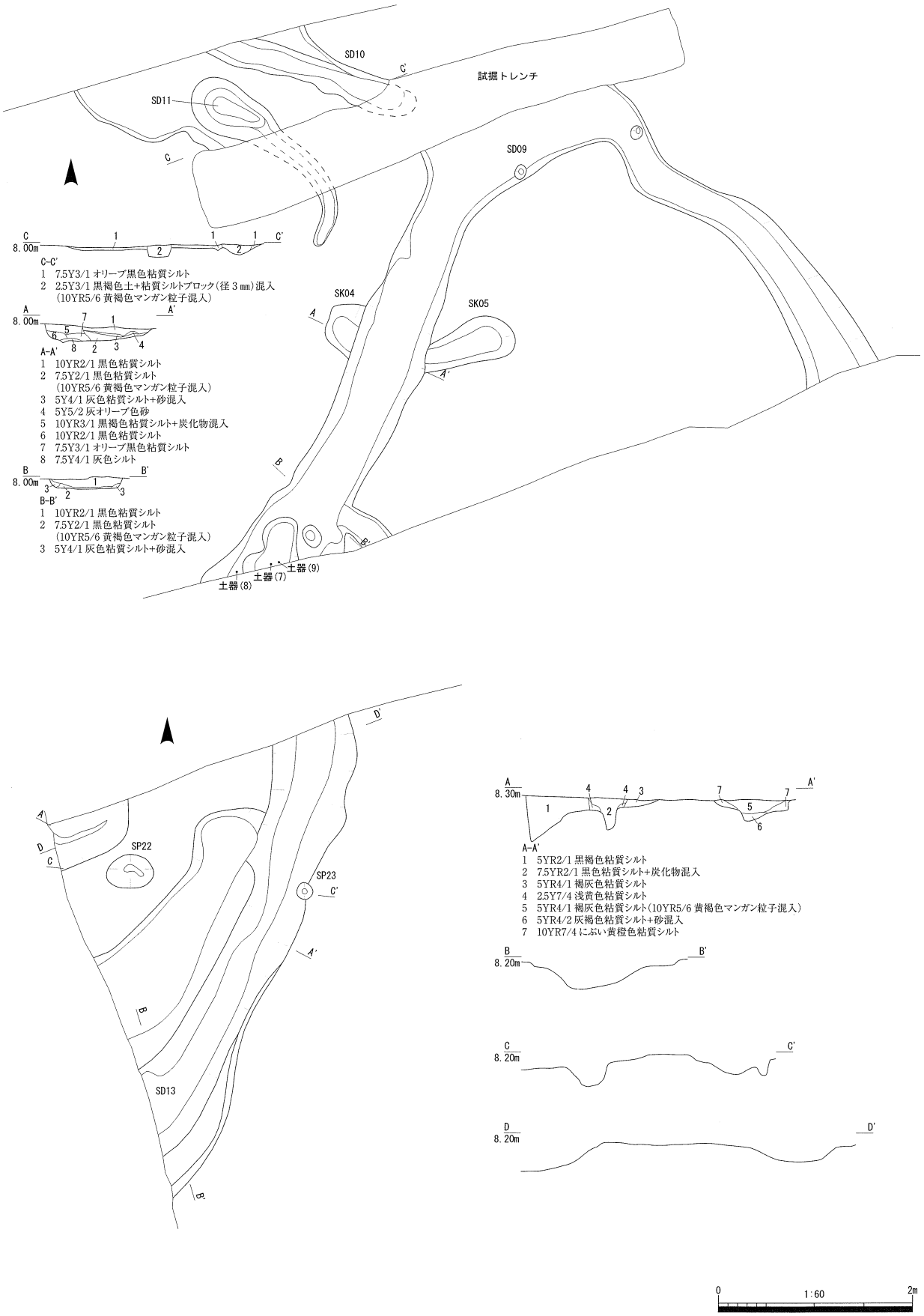
７号溝（SD07、第９図、第12図４～６、写真図版６－４～６）

調査区の東部南側、6Iグリッドに位置する。南側の調査区域外への広がりが見られ、全体像は不明である。蛇行する形状で、幅約0.30～0.90m、検出面からの深さは約0.13m、底面には若干の凹凸がみられる。出土した土器破片（４～６）及び堆積土から、当該期の遺構と判断した。

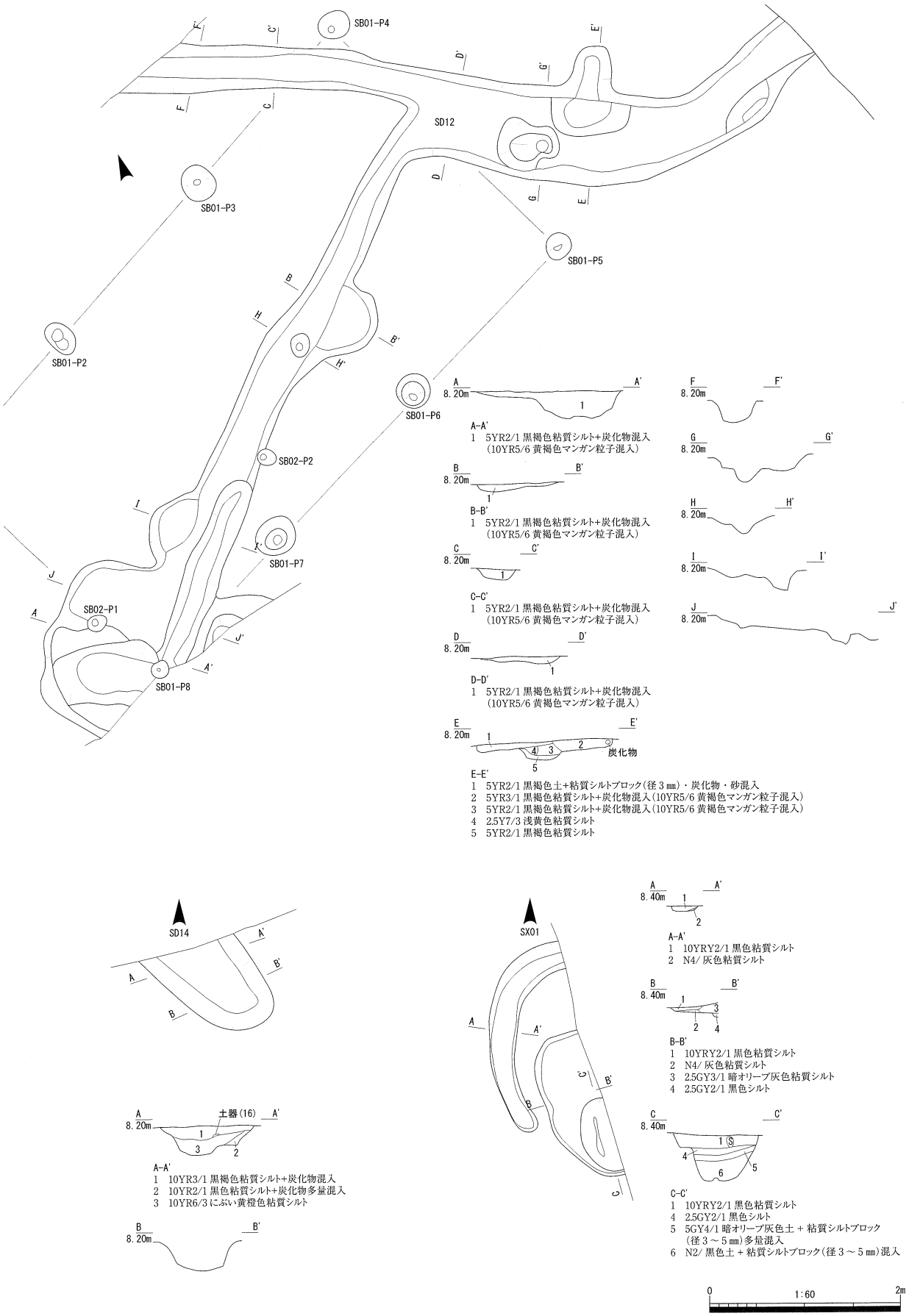
４・５は平縁口縁の甕の口縁部～胴部で、６は壺又は鉢の底部で中央が凹む。器形などの特徴から、月影Ⅱ式に相当する時期のものと考えられる。



第5図　SB01. SB02. SD02. SD04. SD05. SD08平・断面図



第6図　SD09. SD10. SD11. SD13. SK04. SP22. SP23平・断面図



第7図　SD12. SD14. SX01平・断面図

8号溝（SD08、第5図、写真図版2）

調査区の東部、6I・7I・7Jグリッドに位置する。北側の調査区域外へ遺構の広がりが見られ、全体像は不明である。形状は直線的で、検出長5.10m、幅約0.30～0.40m、検出面からの深さは約7.0cm～0.11mを測る。断面形はU字形で底面には部分的に凹みがあるものの、際立った凹凸は見られない。遺物の出土はなかったが、堆積土が黒褐シルトであり、当該期の遺構と判断した。

9号溝（SD09、第6図、第12図7～9、写真図版2、写真図版6－8・9、写真図版7－7）

調査区の中央部、6I・7H・7I・8H・8Iグリッドに位置する。北側及び南側の調査区域外への広がりが見られ、遺構は調査区を南北にまたぐ形で検出したが、全体像は不明である。形状は二股に分岐し、区画的である。北側では幅約2.50m、検出面からの深さは約3.0cm、南側では幅約0.40～0.70m、検出面からの深さは約0.13m、断面形は幅広のU字形で、底面はなだらかに湾曲する。北側でSD10・SD11、南側でSK04・SK05と重複し、試掘トレンチが縦断する。出土した土器破片（7～9）及び堆積土から、当該期の遺構である。

7は高杯の杯底部～脚部で外反脚、8は無頸鉢の口縁部～体部で、口縁端部が若干くの字状で丸縁となる。9は鉢の底部である。いずれも月影Ⅱ式に相当する時期の特徴を有するものである。

12号溝（SD12、第7図、第12図10～15、写真図版2、写真図版6－10～15）

調査区の西部、11G・11H・12G・12Hグリッドに位置する。北側及び南側の調査区域外へ遺構の広がりが見られ、SD09と同じく遺構は調査区を南北にまたぐ形で検出した。南側ではSD01と重複し、SD01よりも古い状態での検出であった。形状は途中で二股に分岐し、区画的な様相を呈する。北側では幅約0.50m、検出面からの深さは約0.10m、南側では幅約0.50～1.00m、検出面からの深さは約8.0cm～0.30m、全体的に断面形はU字形で底面はなだらかに湾曲するが、12G南壁に接する箇所で隅丸方形状に広くなり深さも増す。出土した土器破片（10～15）及び堆積土から、当該期の遺構である。

10は受口甕の口縁部、11はほぼ全面に煤が付着する有段甕の口縁部、12は甕又は壺の底部、13は甕の底部、14は有段器台の受部、15は高杯の脚基部である。器形などの特徴から月影Ⅰ式に相当するものと考えられる。

13号溝（SD13、第6図、写真図版2）

調査区の西部、12G・12H・13G・13Hグリッドに位置する。遺構は調査区を北西にまたぐ形で検出した。形状は北壁から西壁に向かって伸び、二股に分岐する。幅約0.70～1.70m、検出面からの深さは約0.22m、断面形はU字形で底面は湾曲する。分岐して北壁に接する箇所は、谷地状の自然地形へと繋がるものと判断した。遺物の出土はないが、堆積土が黒褐シルトであり、当該期の遺構と判断した。

14号溝（SD14、第7図、第12図16、写真図版2、写真図版6－16）

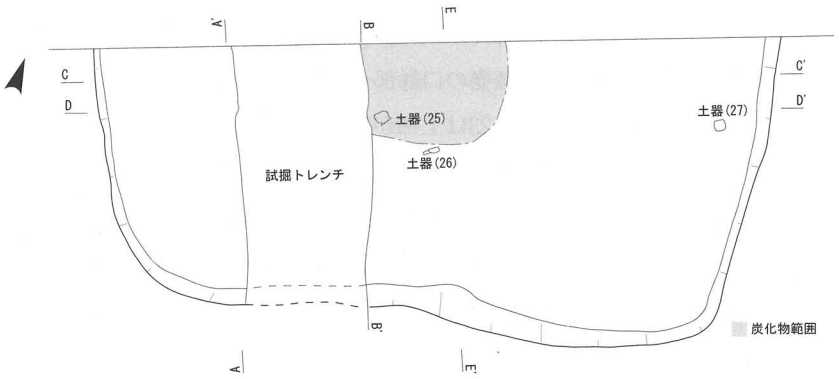
調査区の西部北側、12Hグリッドに位置する。北側の調査区域外への広がりが見られ、全体像は不明である。検出長約1.10m、幅約0.80～1.00m、検出面からの深さは約0.31m、断面形はU字形で、底面は平坦である。出土した土師器破片（16）及び堆積土から、当該期の遺構である。

16は鉢形高杯の杯部又は無頸鉢の口縁部である。月影式に相当するものと考えられる。

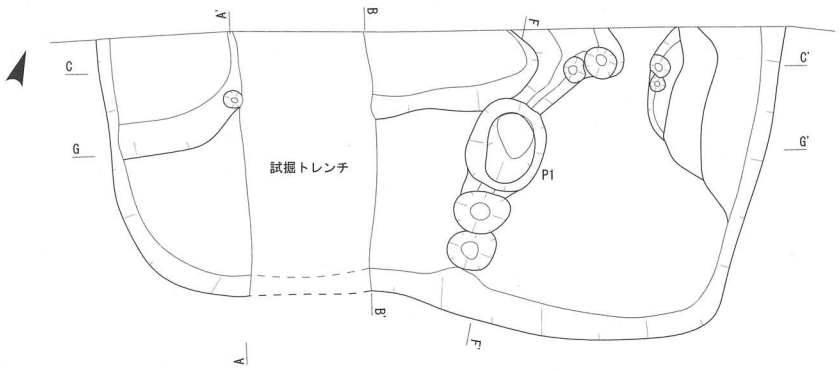
1号竪穴建物（SI01、第8図、第12図17～33、写真図版3、写真図版6－17～23・25～30、写真図版7－24・31～33）

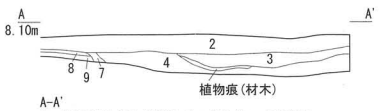
調査区の中央部北側、8H・8I・9H・9Iグリッドに位置する。竪穴式建物である。東西幅約5.48m、北側の調査区域外への広がりが見られ、平面形は隅丸方形になるものと推定される。検出面から床面までの深さは約0.25m、床面は平坦で、中央部付近を中心に炭化物の薄い層が一定範囲の広がりで確認でき、炉が存在した可能性も考えられるが、検出には至っていない。壁面はなだらかな傾斜で、床面と壁面では上屋の建築部材などの痕跡を確認することは出来なかったが、堆積土中（試掘トレンチを利用した断ち割り断面・A-A′間）において上屋の建築部材と推定される植物痕（材木）が見つかっている。覆土中からは数多くの土器破片が出土したが、床面上では3点の土器破片（25～27）が確認できたのみであった。床面から掘り方底面までの深さは約0.20mを測り、掘り方底面は凹凸があって東側と西側では段差が見られ、中央は凹んで南北方向の溝状となる。この溝状箇所で、上層に柱の痕跡と推定される炭化物を多く含んだ楕円形の穴・P1（長軸約0.75m×短軸約0.60

SI01床面

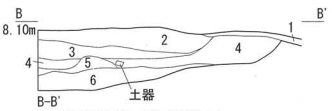


SI01堀り方

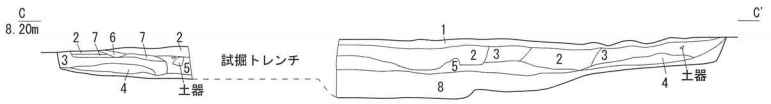




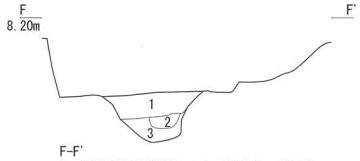
A-A'
2　10YR2/1 黒色粘質シルト+炭化物・土器混入
3　10YR2/1 黒色土+粘質シルトブロック(径5～8㎜)・炭化物・土器混入
4　10YR2/1 黒色粘質シルト+炭化物・土器混入
7　N2/ 黒色粘質シルト
8　N4/ 灰色粘質シルト
9　N3/ 暗灰色土+粘質シルトブロック(径3㎜)混入



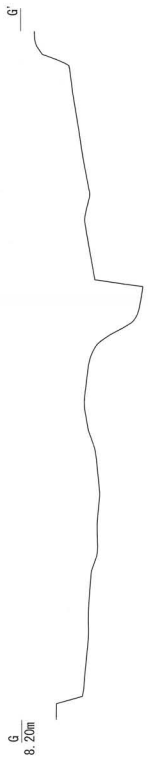
B-B'
1　5Y5/2 灰オリーブ色粘質シルト
2　10YR2/1 黒色粘質シルト+炭化物・土器混入
3　10YR2/1 黒色土+粘質シルトブロック(径5～8㎜)・炭化物・土器混入
4　10YR2/1 黒色粘質シルト+炭化物・土器混入
5　N2/ 黒色粘質シルト+炭化物多量混入
6　10Y4/1 灰色粘質シルト+炭化物・砂混入



C-C'
1　10YR3/1 黒褐色粘質シルト+炭化物
2　10YR2/1 黒色粘質シルト+炭化物・土器混入
3　10YR2/1 黒色土+粘質シルトブロック(径5～8㎜)・炭化物・土器混入
4　5YR3/1 黒褐色粘質シルト+炭化物混入
5　10YR2/1 黒色粘質シルト+炭化物・土器混入
6　2.5Y6/1 黄灰色砂
7　2.5Y7/3 浅黄色粘質シルト
8　10Y4/1 灰色粘質シルト+炭化物・砂混入



F-F'
1　10Y4/1灰色粘質シルト＋炭化物・砂混入
2　2.5Y2/1黒色土＋炭化物多量混入
3　2.5Y3/1黒褐色粘質シルト＋砂混入



第8図　SI01平・断面図

m、掘り方底面からの深さ約0.39m）が確認でき、本建物に伴う柱穴と推定される。壁周溝は確認できなかった。

17～23は東側の覆土中から出土したもので、17は有稜甕の口縁部～胴部、18は有段甕の口縁部～胴部、19は甕又は壺の底部、20・21は有段高杯の杯部、22は有鈕蓋のつまみ部、23は上部が握り状となる三角錐形状の磨石である。24は試掘トレンチ内から出土したもので、口縁部が若干くの字状を呈する無頸鉢である。25～27は床面上からの出土で、25・26は有段甕の口縁部、27は小型丸縁甕の口縁部～胴部である。28～33は床面下の掘り方内から出土したもので、28は有稜甕の口縁部～頸部、29は丸縁甕の口縁部～胴部、30は高杯の杯部～脚部、31は高杯又は器台の脚裾部、32は有鈕蓋のつまみ部～口縁部、33は台付鉢の台部である。17～27は月影Ⅱ式、28～33は月影Ⅰ式及び同Ⅱ式に相当する土器の特徴を有するものである。

1号土坑（SK01、第11図、写真図版2）

調査区の東部中央、5I・5Jグリッドに位置する。SD03によって分断されているが、平面形は南北方向に伸びる細長楕円形であり、長軸約2.70m×短軸約0.40～0.45mを測る。検出面からの深さは約8.0cm、断面形はU字形となり、底面は平坦である。遺物の出土はないが、堆積土が黒褐シルトであることから、当該期の遺構と判断した。

2号土坑（SK02、第9図）

調査区の東部南側、5Iグリッドに位置する。平面形は細長楕円形であり、長軸約1.02m×短軸約0.32mを測る。検出面からの深さは約5.0cm、断面形はU字形となり、底面は平坦である。遺物の出土はないが、堆積土が黒褐シルトであることから、当該期の遺構と判断した。

3号土坑（SK03、第9図、第12図34、写真図版7－34）

調査区の中央部東側、7Iグリッドに位置する。平面形は楕円形であり、長軸約1.08m×短軸約0.82mを測る。検出面からの深さは約9.0cm、底面は湾曲する。土器破片（34）が出土している。

34は甕又は壺・鉢の口縁部である。月影式に相当するものと考えられる。

4号土坑（SK04、第6図、写真図版2）

SK03と同じく7Iグリッドに位置する。平面形は推定楕円形であり、南北約0.52mを測る。検出面からの深さは約0.18mで、底面は湾曲する。遺物の出土はないが、切り合いからSD09よりも古い時期である。

5号土坑（SK05、第9図）

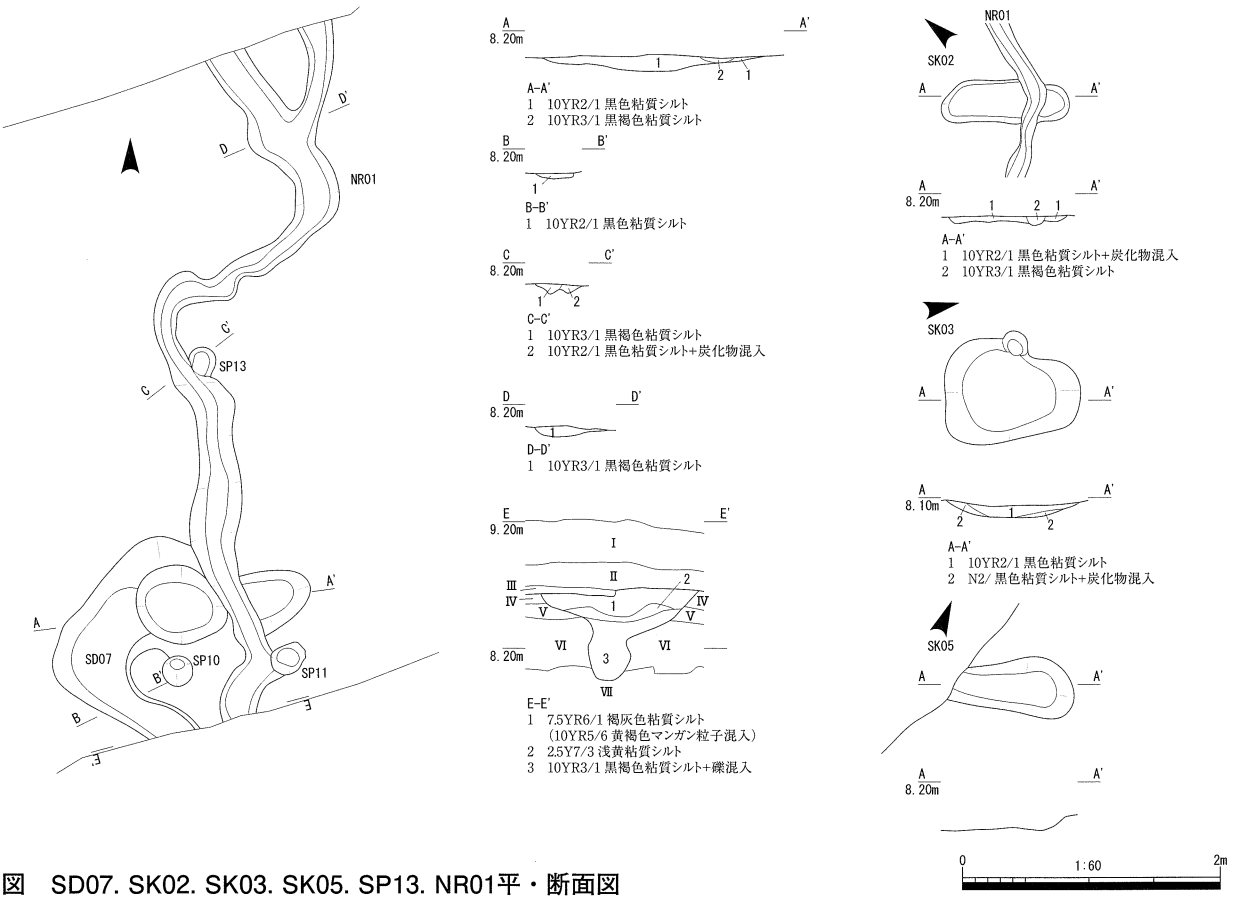
SK03・SK04と同じく7Iグリッドに位置する。平面形は推定細長楕円形であり、長軸推定約1.20m×短軸約0.40mを測る。検出面からの深さは約9.0cm、底面は湾曲する。遺物の出土はないが、切り合いからSD09よりも古い時期である。

1号不明遺構（SX01、第7図、写真図版4）

調査区の東部端、4Jグリッドに位置する。東側の調査区域外へ遺構の広がりが見られ、全体像は不明である。平面形が推定楕円形で、長軸約1.62m、検出面からの深さが約0.49mの土坑で、北側から西側を取り囲むように幅約0.20～0.35m、断面形がU字形、検出面からの深さが約6.0cmの平面形が推定半円形の溝が巡る。その形状から周溝を巡らす建物の痕跡とも想像できるが、全体像が不明のため断定はできなかった。土器破片が出土しているが、細片で図化はできなかった。出土した土器及び堆積土から、当該期の遺構として判断した。

包含層（第13図38～65、第14図66～85、写真図版7－38～40・42～45・47・49、写真図版8－50・52・55・58・59・62・64・66・72）

38～85は、基本層序Ⅵ層（遺物包含層）から出土した土器破片である。38～41は4Jグリッド出土であり、38・39は甕の口縁部で、38は擬凹線甕、39は有段甕、40・41は有紐蓋である。42は5Jグリッド出土で、有段の甕又は壺の口縁部である。43～47は6Iグリッド出土であり、43は有段壺の口縁部、44は有段壺の胴部～底部、45は有段壺の口縁部、46は有段高杯の杯部、47は無頸台付鉢の体部～台部である。48～52は6Jグリッド出土であり、48は丸縁甕の口縁部～胴部、49・50は有段壺の口縁部～胴部、51は有段高杯の杯口縁部、52は装飾高杯で、胴部中央に幅1.5cmの帯が巡る。53・54は7Hグリッド出土であり、53は有段高杯の杯部、54は器台の受下部～脚裾上部である。55は7Iグリッド出土で、有段高杯の杯部～脚基部である。56～62は8Hグリッド出土であり、56・57は壺の底部、58は小型高杯で、開脚で脚裾上部に円形透孔をもつ。59は高杯の脚基部



第９図　SD07. SK02. SK03. SK05. SP13. NR01平・断面図

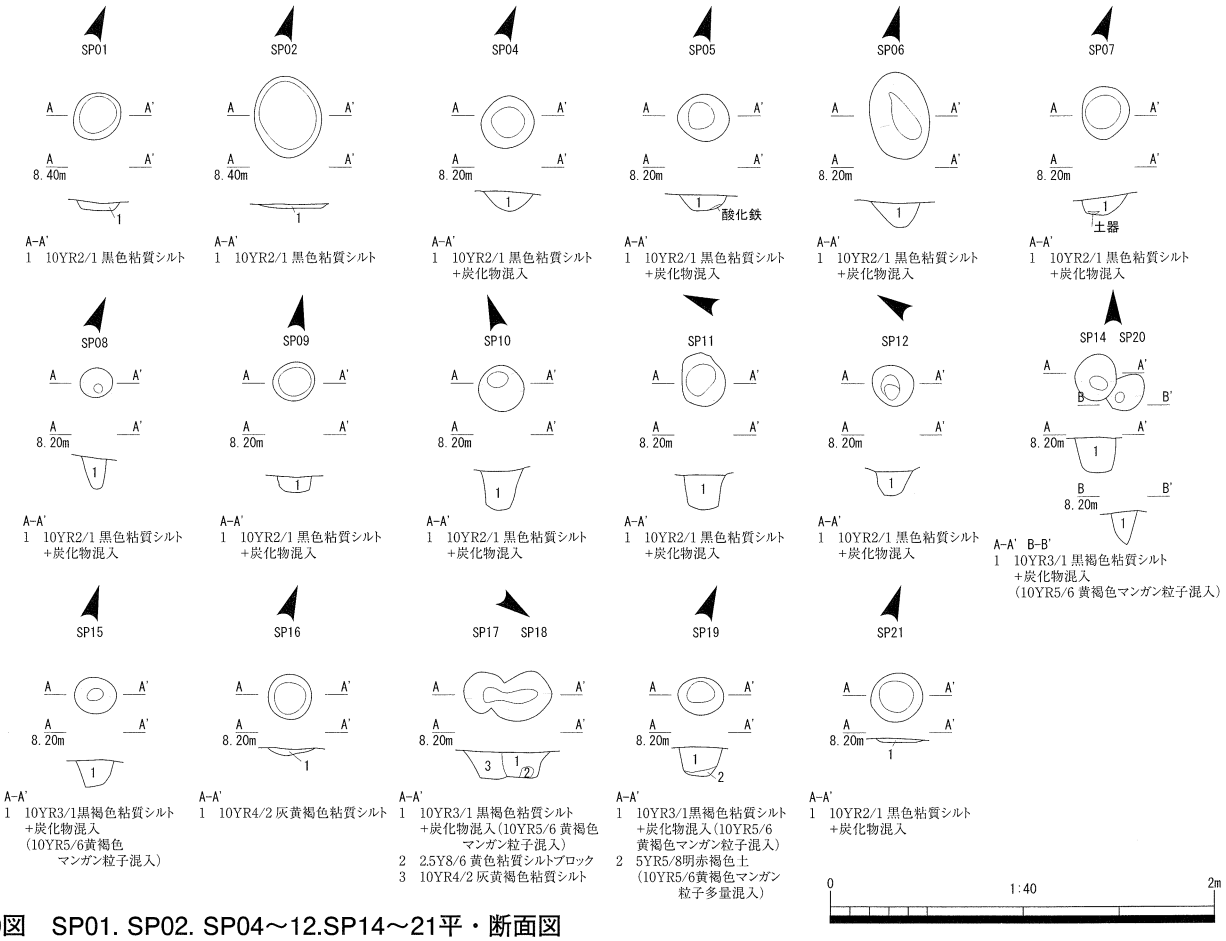
で形状は棒状である。60は器台の脚部で開脚、61は無頸鉢の口縁部～体部、62はほぼ完形のくの字鉢である。63～74は8Iグリッド出土であり、63・64は擬凹線甕の口縁部～胴部、65は高杯の杯底部～脚基部、66は小型高杯で、脚裾上部に円形透孔をもち開脚と推定される。67は高杯の脚部で外反脚、68は小型高杯の杯底部、69は器台の受下部～脚基部、70～73は有紐蓋、74はくの字鉢の口縁部～体部である。75～81は9Hグリッド出土であり、75・76は有段甕の口縁部、77は短頸壺の口縁部、78は壺の底部、79は高杯の脚部で、外反脚で脚裾上部に円形透孔をもち外面に赤彩の痕跡が残る。80は器台の脚部、81は有紐蓋である。82～84は9Iグリッド出土であり、82は受口甕の口縁部、83は手捏ね状の甕又は壺の底部、84は器台の脚基部である。85は12Gグリッドの出土で、つまみ部中央が凹む有紐蓋である。月影Ⅰ式及びⅡ式に相当する特徴を有する土器である。

(2) 奈良～平安時代

１号溝（SD01、第11図、第15図86～93、写真図版５、写真図版８－86～91・93、巻頭写真２下段）

調査区の西部中央、10G・10H・11Hグリッドに位置する。基本層序Ⅲ層上面から構築された遺構である。調査区を南北にまたぐ形で検出した。形状は直線的（南北方向）で、北壁での検出幅は約2.40m、深さは約0.85mを測る。断面形は幅広のU字状で、底面の幅は約1.00～1.40mとなる。堆積土の観察から、完全に埋没するまでに、8回以上にわたっての流水の過程が窺える。堆積土中から、須恵器破片（86～91）及び砥石（93）が出土しており、南壁面（B-B′）堆積土７から石製（蛇紋岩）の巡方（92）が出土している。

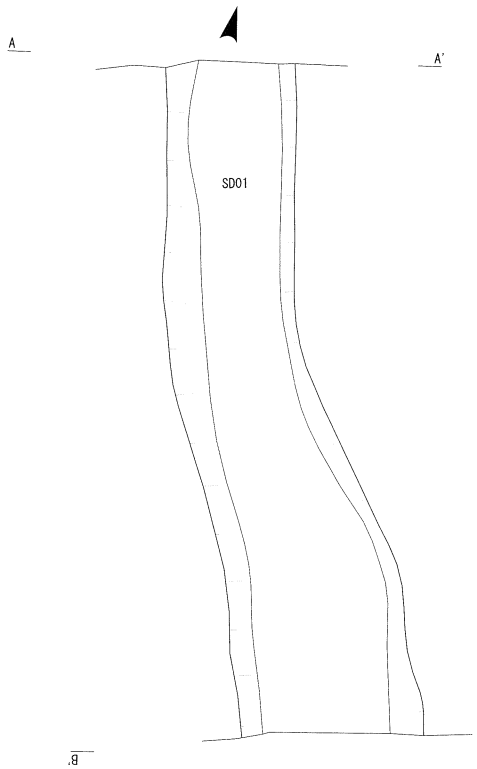
86～91は須恵器で、86は高台杯の体部～底部、87は甕又は壺の底部、88～91は甕又は壺の胴部で内外面ともにタタキ痕がある。92は腰帯具の巡方で、表面は薄い緑色をした蛇紋岩特有の縞模様が残り、丁寧に研磨されている。無孔で、裏面には二つで一対の潜り穴が四方に配置される。93は白色礫岩の砥石で、平面形は長方形であり、表面・裏面・側面ともにタテ方向の磨り痕がよく残っている。

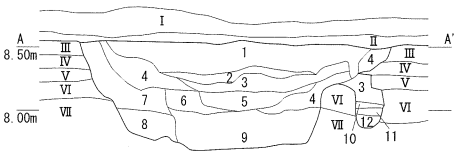


第10図　SP01. SP02. SP04～12.SP14～21平・断面図

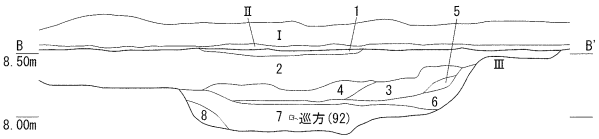
名称	略称	位置	平面形	規模m	深さcm	出土遺物	堆積土	時期	挿図	写真図版	備考
1号ピット	SP01	4Jグリッド	円形	直径0.25	5.0	無	黒褐シルト	弥生末～古墳初	第10図		
2号ピット	SP02	5Jグリッド	楕円形	長軸0.45×短軸0.34	2.0	無	黒褐シルト	弥生末～古墳初	第10図		
3号ピット	SP03	5Jグリッド	円形	直径0.19	8.0	無	黒褐シルト	弥生末～古墳初	第11図		
4号ピット	SP04	6Iグリッド	円形	直径0.28	10.0	無	黒褐シルト	弥生末～古墳初	第10図	写真図版5	
5号ピット	SP05	6Iグリッド	円形	直径0.29	8.0	無	黒褐シルト	弥生末～古墳初	第10図	写真図版5	
6号ピット	SP06	6Jグリッド	楕円形	長軸0.49×短軸0.30	13.0	無	黒褐シルト	弥生末～古墳初	第10図		
7号ピット	SP07	6Iグリッド	円形	直径0.38	10.0	土器細片	黒褐シルト	弥生末～古墳初	第10図		
8号ピット	SP08	6Iグリッド	円形	直径0.19	16.0	無	黒褐シルト	弥生末～古墳初	第10図		
9号ピット	SP09	7Iグリッド	円形	直径0.19	8.0	高杯又は器台1	黒褐シルト	弥生末～古墳初	第10図、第12図35	写真図版7－35	
10号ピット	SP10	6Iグリッド	円形	直径0.25	20.0	無	黒褐シルト	弥生末～古墳初	第10図		SD07との前後関係不明
11号ピット	SP11	6Iグリッド	円形	直径0.20	18.0	有段壺1、甕又は壺1	黒褐シルト	弥生末～古墳初	第10図、第13図36・37	写真図版7－36・37	
12号ピット	SP12	5Iグリッド	円形	直径0.20	12.0	無	黒褐シルト	弥生末～古墳初	第10図		SD05との前後関係不明
13号ピット	SP13	6Iグリッド	円形	直径0.20	7.0	無	黒褐シルト	弥生末～古墳初	第9図		
14号ピット	SP14	12Gグリッド	円形	直径0.20	18.0	無	黒褐シルト	弥生末～古墳初	第10図		
15号ピット	SP15	11Hグリッド	円形	直径0.22	14.0	無	黒褐シルト	弥生末～古墳初	第10図		
16号ピット	SP16	12Gグリッド	円形	直径0.20	3.0	無	灰黄褐シルト	不明	第10図		
17号ピット	SP17	12Gグリッド	円形	直径0.22	14.0	無	黒褐シルト	弥生末～古墳初	第10図		SP18よりも新しい
18号ピット	SP18	12Gグリッド	楕円形	長軸0.30×短軸0.26	14.0	無	黒褐シルト	弥生末～古墳初	第10図		SP17よりも古い
19号ピット	SP19	12Gグリッド	楕円形	長軸0.25×短軸0.20	15.0	無	黒褐シルト	弥生末～古墳初	第10図		
20号ピット	SP20	12Gグリッド	楕円形	長軸0.25×短軸0.20	17.0	土器細片	黒褐シルト	弥生末～古墳初	第10図		
21号ピット	SP21	12Gグリッド	円形	直径0.28	3.0	無	黒褐シルト	弥生末～古墳初	第10図		
22号ピット	SP22	13Gグリッド	楕円形	長軸0.50×短軸0.38	23.0	無	黒褐シルト	弥生末～古墳初	第６図		SD13よりも新しい
23号ピット	SP23	13Gグリッド	円形	直径0.18	12.0	無	黒褐シルト	弥生末～古墳初	第６図		SD13との前後関係不明

第１表　ピット一覧表

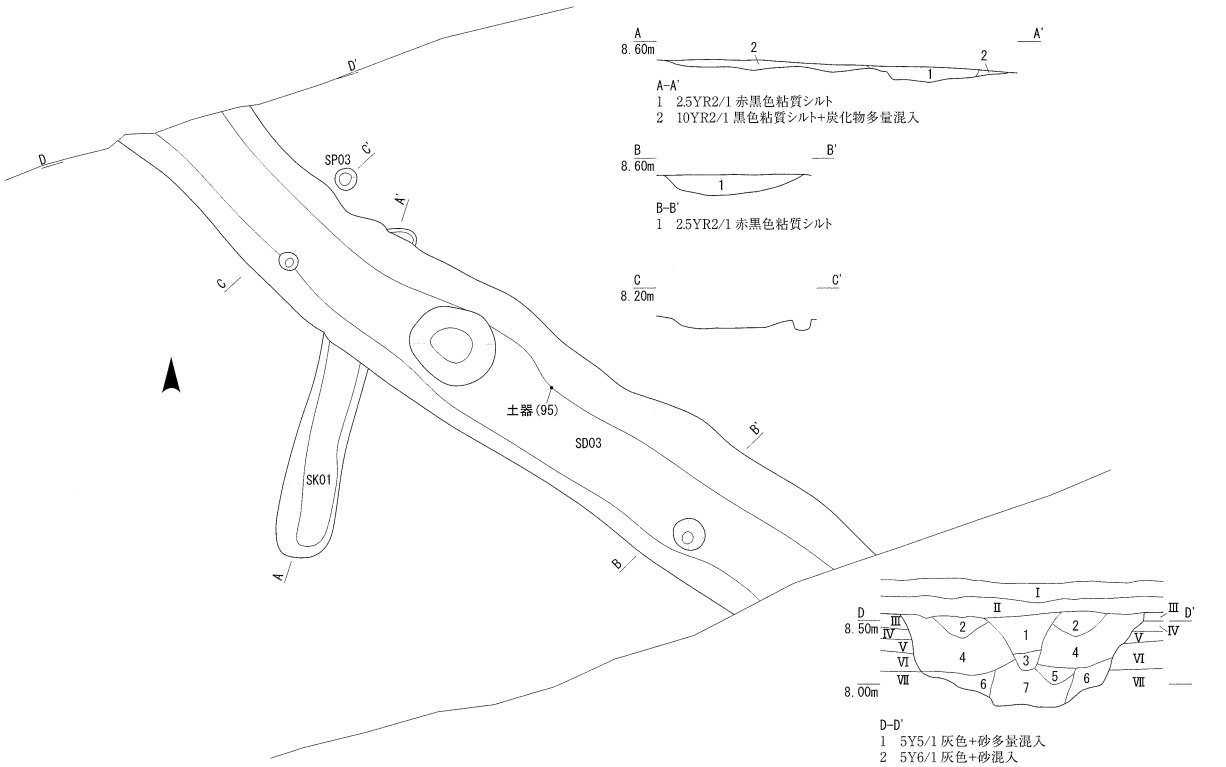




A-A'
1 7.5YR4/1 褐灰色粘質シルト+炭化物・砂少量混入
2 10YR3/1 黒褐色粘質シルト
3 10YR3/3 暗褐色粘質シルト
(10YR5/6 黄褐色マンガン粒子混入)
4 10YR4/2 灰黄褐色土+粘質シルトブロック(径5～8㎜)・炭化物混入
5 7.5YR4/3 褐色粘質シルト
6 7.5YR5/1 褐灰色砂
7 5YR4/1 褐灰色粘質シルト+炭化物・砂混入
8 2.5Y4/1 黄灰色粘質シルト
9 2.5Y3/1 黒褐色粘質シルト+黒色土ブロック(径5㎜)
(10YR5/6 黄褐色マンガン粒子混入)
10 5Y4/1 灰色粘質シルト
11 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質シルト+砂混入
12 5Y3/1 オリーブ黒色粘質シルト



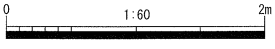
B-B'
1 5Y5/1 灰色砂
2 2.5Y4/1 黄灰色粘質シルト+炭化物・砂混入
3 10YR4/2 灰黄褐色土+粘質シルトブロック(径5㎜)多量・炭化物混入
4 10YR3/3 暗褐色粘質シルト(10YR5/6 黄褐色マンガン粒子混入)
5 10YR4/2 灰黄褐色土+粘質シルトブロック(径3～6㎜)多量・炭化物混入
6 5YR4/1 褐灰色粘質シルト+炭化物・砂混入
7 2.5Y3/1 黒褐色粘質シルト+黒色土ブロック(径5㎜)混入
(10YR5/6 黄褐色マンガン粒子混入)
8 2.5Y3/1 黒褐色粘質シルト+粘質シルト多量・黒色土ブロック(径5㎜)混入



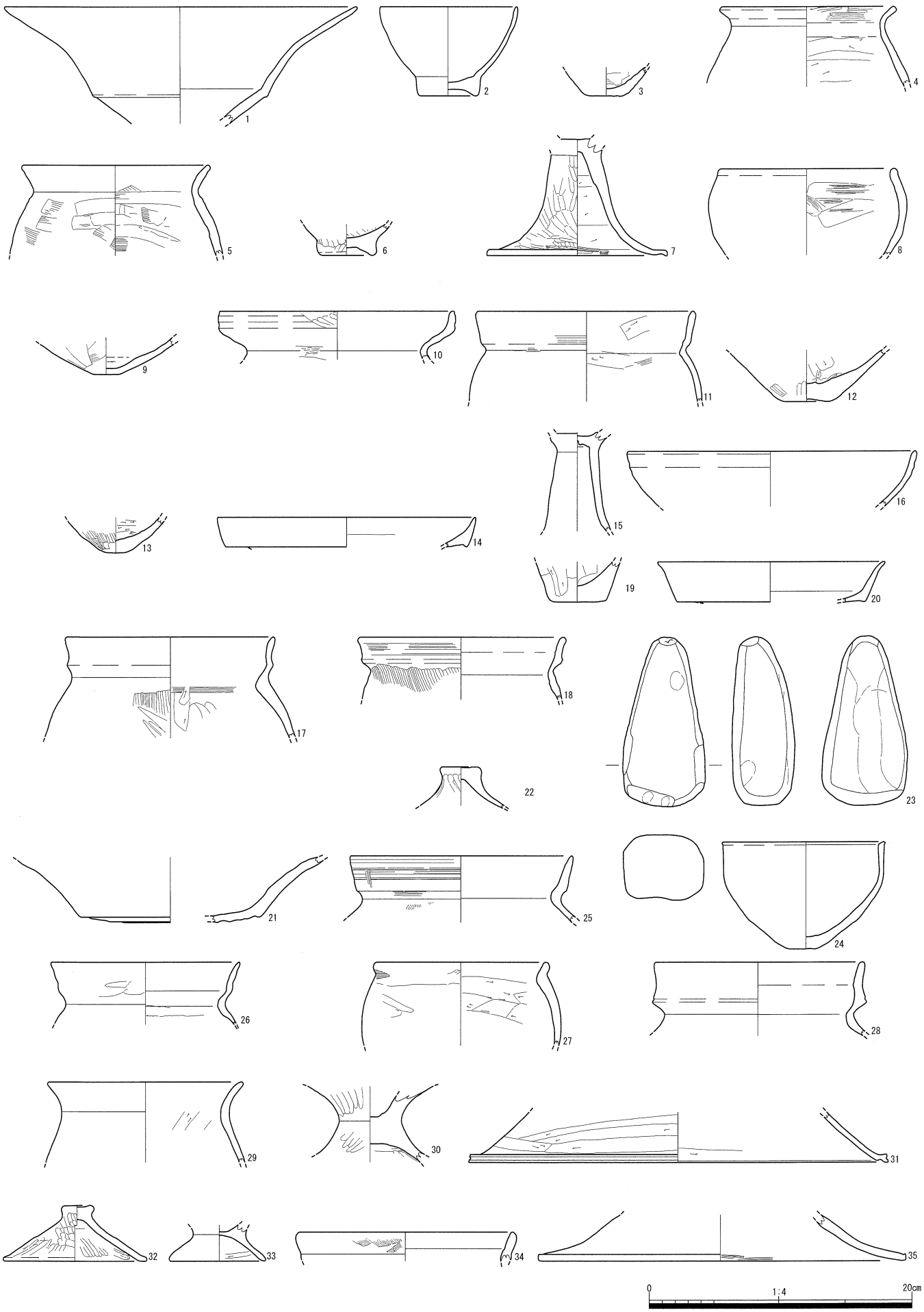
A-A'
1 2.5YR2/1 赤黒色粘質シルト
2 10YR2/1 黒色粘質シルト+炭化物多量混入

B-B'
1 2.5YR2/1 赤黒色粘質シルト

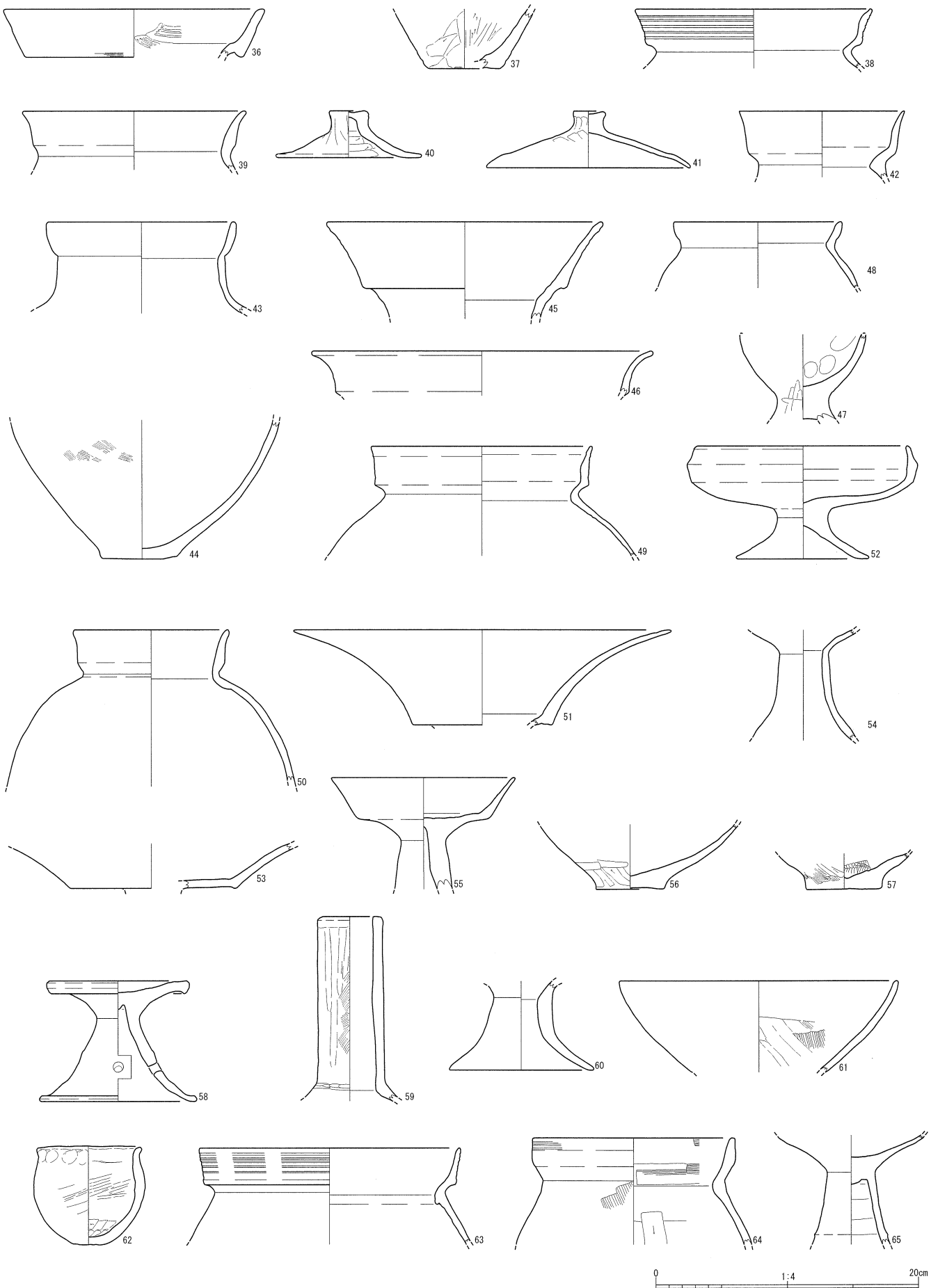
D-D'
1 5Y5/1 灰色+砂多量混入
2 5Y6/1 灰色+砂混入
3 5Y4/1 灰色砂
4 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト
5 2.5Y5/1 黄灰色粘質シルト(硬質)
6 2.5Y3/1 黒褐色土+粘質シルトブロック(径5㎜)混入
7 2.5YR2/1 赤黒色粘質シルト



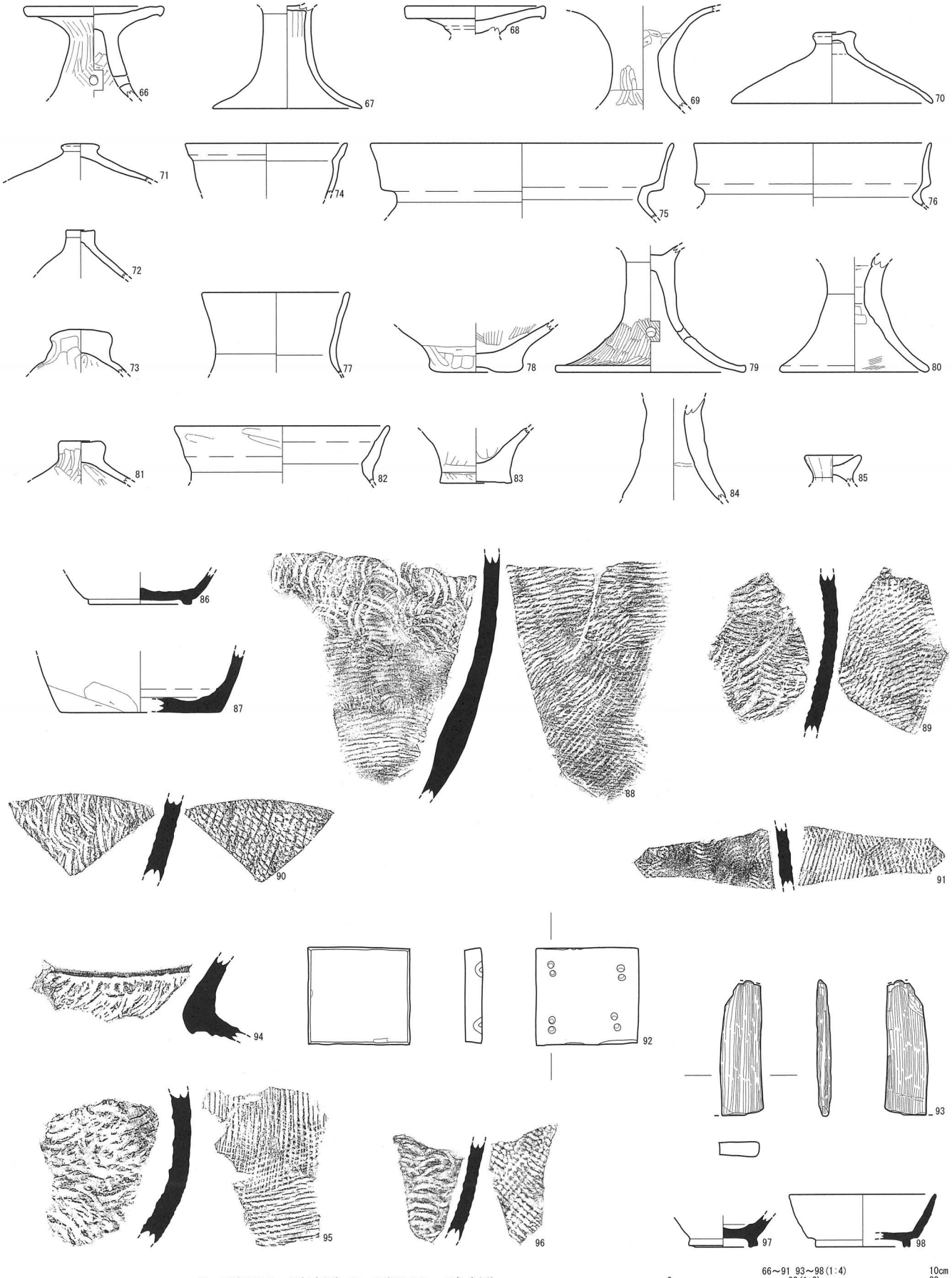
第11図　SD01.SD03.SK01.SP03平・断面図



第12図　遺物実測図(1) 1・2(SB01) 3(NR01) 4～6(SD07) 7～9(SD09) 10～15(SD12) 16(SD14) 17～33(SI01) 34(SK03) 35(SP09)



第13図　遺物実測図(2)　36・37(SP11) 38～41(4Jグリッド包含層) 42(5Jグリッド包含層) 43～47(6Iグリッド包含層) 48～52(6Jグリッド包含層) 53・54(7Hグリッド包含層) 55(7Iグリッド包含層) 56～62(8Hグリッド包含層) 63～65(8Iグリッド包含層)



第14図　遺物実測図(3)　66～74(8Iグリッド包含層) 75～81(9Hグリッド包含層)
82～84(9Iグリッド包含層) 85(12Gグリッド包含層)
86～93(SD01) 94～96(SD03) 97・98(表採)

番号	器種	大きさ （ ）は復元、※は残存	色調	焼成・胎土	器形・成形・文様・調整の特徴	残存箇所	残存率	遺物番号	備考
1	高杯 （有段高杯）	口縁部径(27.0cm) 器高※8.8cm 脚裾部径-	外面　明黄褐(10YR7/6) 内面　黄灰(2.5Y5/1)	焼成　普通 胎土　砂粒少量含む	外面磨耗・比熱のため不明。内面磨耗のため不明。	杯部	15%	SB01-1	
2	鉢 （台付無頸鉢）	口縁部径(10.5cm) 器高6.7cm 底部径(4.7cm)	外面　黄橙(10YR8/6) 内面　浅黄橙(10YR8/4)	焼成　普通 胎土　砂粒含む	外面・内面ともに磨耗のため不明。	口縁部～底部	20%	SB01-2	
3	甕又は壺	口縁部径- 器高(2.1cm) 底部径2.6cm	外面　にぶい黄褐(10YR7/4) 内面　褐灰(10YR5/1)	焼成　普通 胎土　砂粒含む	外面ミガキ？・磨耗のため不明瞭。内面ヘラナデ。	底部	5%	NR01-1	
4	甕	口縁部径(13.0cm) 器高※6.0cm 底部径-	外面　灰黄褐(10YR6/2) 内面　にぶい橙(5YR6/3)	焼成　普通 胎土　砂粒含む	平縁口縁。外面口縁部ヨコナデ、胴部磨耗のため不明。内面口縁部ミガキ・磨耗のため不明瞭、胴部ケズリ。	口縁部～胴部	5%	SD07-1	
5	甕	口縁部径(14.2cm) 器高※6.3cm 底部径-	外面　灰赤(2.5YR6/2) 内面　橙(2.5YR6/6)	焼成　不良 胎土　砂粒多量含む	平縁口縁。外面・内面ともに口縁部ナデ、胴部ハケメ・磨耗のため不明瞭。	口縁部～胴部	20%	SD07-2	
6	壺又は鉢	口縁部径- 器高※2.3cm 底部径4.6cm	外面　褐(7.5YR4/4) 内面　褐(7.5YR4/3)	焼成　普通 胎土　砂粒含む	底面中央凹み。外面胴部（体部）ミガキ、底部ナデ。内面ミガキ。底面磨耗のため不明。	底部	5%	SD07-3	
7	高杯	口縁部径- 器高※8.8cm 脚裾部径13.8cm	外面　にぶい黄橙(10YR7/2) 内面　浅黄(2.5Y7/3)	焼成　普通 胎土　砂粒含む	外反脚。外面脚裾部ナデ、他はミガキ。内面脚裾部ハケメ、他はケズリ、杯部内面ミガキ。	杯底部～脚部	40%	SD09-1	
8	鉢 （無頸鉢）	口縁部径(13.2cm) 器高※6.7cm 底部径-	外面　橙(7.5YR7/6) 内面　にぶい黄橙(10YR7/3)	焼成　普通 胎土　砂粒多量含む	口縁端部若干くの字状で丸縁。外面磨耗・剥離のため不明。内面ハケメ？・磨耗のため不明瞭。	口縁部～体部	30%	SD09-2	
9	鉢	口縁部径- 器高※2.7cm 底部径1.8cm	外面　浅黄橙(7.5YR8/4) 内面　浅黄橙(7.5YR8/3)	焼成　普通 胎土　砂粒含む	外面ハケメ・磨耗のため不明瞭。内面磨耗のため不明。底面ヘラ切り後ナデ。	底部	10%	SD09-3	
10	甕 （受口甕）	口縁部径(17.6cm) 器高※3.7cm 底部径-	外面　浅黄(10YR8/4) 内面　にぶい黄橙(10YR7/2)	焼成　普通 胎土　砂粒含む	外面口縁部ナナメミガキ、頸部ヨコハケメ・磨耗のため不明瞭。内面磨耗のため不明。	口縁部	5%	SD12-1	
11	甕 （有段甕）	口縁部径(16.2cm) 器高※6.8cm 底部径-	外面　赤黒(7.5R1.7/1) 内面　にぶい橙(2.5YR6/4)	焼成　不良 胎土　砂粒含む	外面ハケメ・不明瞭、ほぼ全面にスス付着。内面ハケメ・ケズリ・不明瞭。	口縁部～胴部	5%	SD12-2	
12	甕又は壺	口縁部径- 器高※3.9cm 底部径3.2cm	外面　褐灰(10YR6/1) 内面　にぶい黄橙(10YR6/3)	焼成　普通 胎土　砂粒含む	外面ミガキ・不明瞭、内面ケズリ。	底部	5%	SD12-3	
13	甕	口縁部径- 器高※2.2cm 底部径2.4cm	外面　灰白(2.5Y8/2) 内面　黄褐(2.5Y5/3)	焼成　普通 胎土　砂粒含む	外面タテハケメ、内面ヘラケズリ。	底部	5%	SD12-4	
14	器台 （有段器台）	受部径(19.8cm) 器高※2.2cm 脚裾部径-	外面　浅黄(7.5YR8/4) 内面　にぶい橙(7.5YR7/4)	焼成　普通 胎土　砂粒含む	外面ミガキ？･磨耗、剥離のため不明瞭。内面剥離のため不明。	受部	5%	SD12-5	
15	高杯	口縁部径- 器高※7.5cm 脚裾部径-	外面　浅黄(2.5Y7/3) 内面　浅黄橙(10YR8/4)	焼成　普通 胎土　砂粒含む	外面・内面ともに磨耗のため不明。	脚基部	40%	SD12-6	
16	高杯又は鉢 （鉢形高杯又は無頸鉢）	口縁部径(21.8cm) 器高※4.2cm 底部径-	外面　浅黄(10YR8/4) 内面　灰白(10YR8/2)	焼成　普通 胎土　砂粒含む	外面・内面ともに磨耗のため不明。	口縁部（杯部）	5%	SD14-1	
17	甕 （有稜甕）	口縁部径(15.7cm) 器高※7.6cm 底部径-	外面　浅黄橙(7.5YR8/3) 内面　浅黄橙(7.5YR8/3)	焼成　良好 胎土　砂粒含む	外面胴部ハケメ。内面胴部ハケメ、ケズリ。	口縁部～胴部	5%	SI01-2区-1	
18	甕 （有段甕）	口縁部径(15.6cm) 器高※4.7cm 底部径-	外面　橙(2.5YR6/6) 内面　にぶい黄橙(10YR6/3)	焼成　良好 胎土　砂粒含む	外面胴部ハケメ。内面ナデ。	口縁部～胴部	5%	SI01-2区-2	
19	甕又は壺	口縁部径- 器高※3.0cm 底部径4.4cm	外面　灰褐(7.5YR6/2) 内面　浅黄橙(10YR8/3)	焼成　良好 胎土　砂粒多量含む	外面ケズリ。内面ナデ。底面未調整。	底部	5%	SI01-2区-3	
20	高杯 （有段高杯）	口縁部径(17.0cm) 器高※3.1cm 脚裾部径-	外面　浅黄橙(10YR8/4) 内面　浅黄橙(10YR8/3)	焼成　良好 胎土　砂粒含む	外面・内面ともに磨耗のため不明。外面黒斑有。	杯部	5%	SI01-2区-4	
21	高杯 （有段高杯）	口縁部径- 器高※4.8cm 脚裾部径-	外面　浅黄橙(10YR8/4) 内面　浅黄橙(10YR8/3)	焼成　普通 胎土　砂粒多量含む	外面磨耗・剥離のため不明。内面磨耗のため不明。	杯部	10%	SI01-2区-5	
22	蓋 （有鈕蓋）	つまみ部径3.2cm 器高※3.1cm 口縁部径-	外面　浅黄橙(7.5YR8/3) 内面　浅黄橙(7.5YR8/3)	焼成　良好 胎土　砂粒含む	外面ミガキ。内面磨耗のため不明。	つまみ部	20%	SI01-2区-6	
23	石器 （磨石）	長さ12.7cm 厚さ4.9cm 幅6.3cm	表面　灰白(2.5Y8/1) 裏面　灰白(2.5Y8/1)	石材　白色礫岩	上部握り状。下部に磨痕、潰し痕有。重量574.2g。	完形	100%	SI01-2区-7	
24	鉢 （無頸鉢）	口縁部径(12.1cm) 器高8.0cm 底部径1.6cm	外面　灰白(10YR8/2) 内面　灰白(10YR8/2)	焼成　良好 胎土　砂粒含む	口縁部若干くの字状。外面・内面ともに磨耗のため不明。	口縁部～底部	70%	SI01-試T-1	
25	甕 （有段甕）	口縁部径(17.0cm) 器高※5.0cm 底部径-	外面　にぶい橙(7.5YR7/4) 内面　にぶい橙(5YR7/4)	焼成　普通 胎土　砂粒含む	外面ハケメ・磨耗のため不明瞭。内面磨耗のため不明。	口縁部	5%	SI01-床-1	
26	甕 （有段甕）	口縁部径(14.2cm) 器高※4.7cm 底部径-	外面　浅黄橙(10YR8/3) 内面　にぶい黄橙(10YR7/3)	焼成　不良 胎土　砂粒多量含む	外面ケズリ？・磨耗のため不明瞭。内面磨耗のため不明・粘土痕有。	口縁部	5%	SI01-床-2	
27	甕 （小型丸縁甕）	口縁部径(12.8cm) 器高※6.3cm 底部径-	外面　にぶい黄橙(10YR7/3) 内面　にぶい黄橙(10YR7/4)	焼成　普通 胎土　砂粒含む	外面ハケメ・ケズリ。内面ケズリ。	口縁部～胴部	5%	SI01-床-3	
28	甕 （有稜甕）	口縁部径(16.0cm) 器高※5.5cm 底部径-	外面　浅黄橙(7.5YR8/4) 内面　灰白(7.5YR8/2)	焼成　普通 胎土　砂粒含む	外面ヨコナデ、稜部上に沈線1条有。内面磨耗のため不明。	口縁部～頸部	5%	SI01-掘-1	
29	甕 （丸縁甕）	口縁部径(15.0cm) 器高※6.0cm 底部径-	外面　灰白(2.5Y8/2) 内面　灰白(2.5Y8/2)	焼成　普通 胎土　砂粒含む	外面磨耗のため不明。内面頸部ナナメケズリ、他は磨耗のため不明。	口縁部～胴部	5%	SI01-掘-2	
30	高杯	口縁部径- 器高※5.7cm 脚裾部径-	外面　にぶい黄橙(10YR7/3) 内面　にぶい黄橙(10YR6/3)	焼成　普通 胎土　砂粒含む	外面・内面ともにミガキ。	杯部～脚部	20%	SI01-掘-3	
31	高杯又は器台	口縁部・受部径- 器高※3.8cm 脚裾部径(32.0cm)	外面　にぶい黄橙(10YR7/4) 内面　にぶい橙(7.5YR7/4)	焼成　普通 胎土　砂粒含む	外反脚。外面ヨコ・ナナメケズリ。内面ヨコケズリ。外面・内面ともに裾部に沈線1条有。	脚裾部	5%	SI01-掘-4	
32	蓋 （有鈕蓋）	つまみ部径2.5cm 器高4.2cm 口縁部径(10.8cm)	外面　にぶい橙(7.5YR7/4) 内面　にぶい橙(7.5YR7/4)	焼成　普通 胎土　砂粒含む	外面つまみ部ナデ・ミガキ、体部ミガキ、口縁部ヨコナデ。内面ケズリ・ミガキ。	つまみ部～口縁部	25%	SI01-掘-5	
33	鉢 （台付鉢）	口縁部径- 器高※2.7cm 台裾部径7.4cm	外面　黄橙(10YR8/6) 内面　灰白(10YR8/2)	焼成　良好 胎土　砂粒含む	外面磨耗のため不明。内面裾部ヨコケズリ・他は磨耗のため不明。	台部	30%	SI01-掘-6	
34	甕又は壺・鉢	口縁部径(16.2cm) 器高※2.2cm 底部径-	外面　褐灰(7.5YR4/1) 内面　褐灰(7.5YR4/1)	焼成　普通 胎土　砂粒含む	外面ハケメ。内面磨耗のため不明。	口縁部	5%	SK03-1	
35	高杯又は器台	口縁部・受部径- 器高※3.5cm 脚裾部径(28.0cm)	外面　にぶい黄橙(10YR7/3) 内面　橙(5YR6/6)	焼成　普通 胎土　砂粒含む	外反脚。外面ミガキ・磨耗のため不明瞭。内面ミガキ・磨耗のため不明瞭。	脚裾部	5%	SP09-1	
36	壺 （有段壺）	口縁部径(19.8cm) 器高※3.2cm 底部径-	外面　にぶい黄橙(10YR7/4) 内面　にぶい黄橙(10YR7/3)	焼成　不良 胎土　砂粒含む	外面口縁端部ナデ、段部ナデ・ハケメ、他は磨耗のため不明。内面ナデ・ハケメ。	口縁部	5%	SP11-1	
37	甕又は壺	口縁部径- 器高※4.5cm 底部径(5.4cm)	外面　にぶい黄橙(10YR7/3) 内面　浅黄(10YR8/3)	焼成　普通 胎土　砂粒多量含む	外面・内面ともにケズリ。	底部	5%	SP11-2	
38	甕 （擬凹線甕）	口縁部径(17.6cm) 器高※4.0cm 底部径-	外面　赤橙(10R6/6) 内面　淡赤(2.5YR7/3)	焼成　不良 胎土　砂粒多量含む	外面擬凹線文・磨耗のため不明瞭。内面磨耗のため不明。	口縁部	10%	4J包含-1	
39	甕 （有段甕）	口縁部径(16.8cm) 器高※4.5cm 底部径-	外面　橙(2.5YR6/6) 内面　にぶい橙(2.5YR6/4)	焼成　良好 胎土　砂粒多量含む	外面・内面ともに磨耗のため不明。	口縁部	10%	4J包含-2	
40	蓋 （有鈕蓋）	つまみ部径3.0cm 器高3.6cm 口縁部径(10.8cm)	外面　にぶい黄橙(10YR7/3) 内面　にぶい黄橙(10YR7/4)	焼成　普通 胎土　砂粒含む	外面つまみ部ナデ、体部ミガキ。内面体部ケズリ。	つまみ部～口縁部	25%	4J包含-3	
41	蓋 （有鈕蓋）	つまみ部径2.4cm 器高4.3cm 口縁部径(15.4cm)	外面　にぶい黄褐(10YR5/3) 内面　褐灰(10YR4/1)	焼成　普通 胎土　砂粒含む	外面つまみ部ナデ、体部ミガキ・磨耗のため不明瞭。内面磨耗のため不明。	つまみ部～口縁部	30%	4J包含-4	
42	甕又は壺 （有段甕又は有段壺）	口縁部径(12.5cm) 器高※5.0cm 底部径-	外面　浅黄橙(10YR8/4) 内面　浅黄橙(10YR8/3)	焼成　良好 胎土　砂粒多量含む	外面・内面ともに磨耗のため不明。	口縁部	20%	5J包含-1	
43	壺 （有段壺）	口縁部径(14.2cm) 器高※6.9cm 底部径-	外面　灰黄(2.5Y7/2) 内面　黄灰(2.5Y5/1)	焼成　普通胎土 砂粒多量含む	外面・内面ともに磨耗のため不明。	口縁部	5%	6J包含-1	
44	壺 （有段壺）	口縁部径- 器高※10.5cm 底部径5.7cm	外面　灰黄(2.5Y7/2) 内面　黄灰(2.5Y5/1)	焼成　普通胎土 砂粒多量含む	外面胴部ハケメ、他は磨耗のため不明。内面磨耗のため不明。底面未調整。	胴部～底部	30%	6J包含-2	
45	壺 （有段壺）	口縁部径(20.6cm) 器高※7.4cm 底部径-	外面　橙(5YR7/6) 内面　橙(5YR6/6)	焼成　不良 胎土　砂粒多量含む	外面ミガキ？・剥離のため不明瞭。内面磨耗のため不明。	口縁部	10%	6J包含-3	
46	高杯 （有段高杯）	口縁部径(25.6cm) 器高※3.4cm 脚裾部径-	外面　にぶい黄橙(10YR7/4) 内面　にぶい黄橙(10YR6/3)	焼成　普通 胎土　砂粒含む	外面口縁端部ナデ、他はナナメ･ヨコミガキ。内面ナナメミガキ。	杯部	10%	6J包含-4	
47	鉢 （無頸台付鉢）	口縁部径- 器高※6.5cm 底部径-	外面　にぶい赤橙(10R6/3) 内面　赤橙(10R6/6)	焼成　普通 胎土　砂粒含む	外面体部と台部の接合部ミガキ、他は磨耗のため不明。内面体部ユビオサエ。	体部～台部	10%	6J包含-5	
48	甕 （丸縁甕）	口縁部径(12.6cm) 器高※5.0cm 底部径-	外面　にぶい橙(7.5YR7/4) 内面　明褐(5YR7/2)	焼成　普通 胎土　砂粒含む	外面・内面ともに磨耗のため不明。	口縁部～胴部	5%	6J包含-1	
49	壺 （有段壺）	口縁部径(16.4cm) 器高※8.3cm 底部径-	外面　にぶい橙(7.5YR7/4) 内面　浅黄(2.5Y7/3)	焼成　不良 胎土　砂粒含む	外面胴部ハケメ・磨耗のため不明瞭、他は磨耗のため不明。内面磨耗のため不明。	口縁部～胴部	10%	6J包含-2	

第２表　遺物観察表

番号	器種	大きさ （ ）は復元、※は残存	色調	焼成・胎土	器形・成形・文様・調整の特徴	残存箇所	残存率	遺物番号	備考
50	壺 （有段壺）	口縁部径（11.6cm） 器高※12.0cm 底部径-	外面　灰黄（2.5Y7/2） 内面　黄灰（7.5Y6/1）	焼成　普通 胎土　砂粒多量含む	外面・内面ともに磨耗のため不明。	口縁部～胴部	25%	6J包含-3	
51	高杯 （有段高杯）	口縁部径（28.4cm） 器高※7.2cm 脚裾部径-	外面　灰黄（2.5Y7/2） 内面　灰白（2.5Y8/2）	焼成　良好 胎土　砂粒少量含む	口縁部外反。外面・内面ともに剥離・磨耗のため不明。	杯口縁部	30%	6J包含-4	
52	高杯 （装飾高杯）	口縁部径（18.0cm） 器高※8.6cm 台裾部径9.9cm	外面　にぶい黄橙（10YR7/4） 内面　暗灰黄（2.5Y5/2）	焼成　普通 胎土　砂粒含む	外面・内面ともに磨耗のため不明。胴部中央に幅1.5cm、突出高0.3cmの帯有。	杯部～台部	60%	6J包含-5	
53	高杯 （有段高杯）	口縁部径- 器高※3.4cm 脚裾部径-	外面　淡黄（2.5Y8/3） 内面　淡黄（2.5Y8/3）	焼成　良好 胎土　砂粒少量含む	口縁部外反。外面・内面ともに磨耗のため不明。	杯部	30%	7H包含-1	
54	器台	受部径- 器高※8.4cm 脚裾部径-	外面　橙（5YR7/6） 内面　橙（5YR7/6）	焼成　普通 胎土　砂粒含む	外面・内面ともに磨耗のため不明。	受下部～脚裾上部	20%	7H包含-2	
55	高杯 （有段高杯）	口縁部径（14.0cm） 器高※8.5cm 脚裾部径-	外面　橙（7.5YR7/6） 内面　橙（7.5YR7/6）	焼成　普通 胎土　砂粒含む	外面・内面ともに磨耗のため不明。	杯部～脚基部	60%	7I包含-1	
56	壺	口縁部径- 器高※4.9cm 底部径5.3cm	外面　にぶい黄橙（10YR7/4） 内面　褐灰（10YR6/1）	焼成　普通 胎土　砂粒含む	外面ナデ・ケズリ、黒斑有。内面磨耗のため不明。底面未調整。	底部	10%	8H包含-1	
57	壺	口縁部径- 器高※2.7cm 底部径5.7cm	外面　黄灰（2.5Y5/1） 内面　暗黄（2.5Y5/2）	焼成　普通 胎土　砂粒含む	外面・内面ともにナナメハケメ。底面未調整。	底部	10%	8H包含-2	
58	高杯 （小型高杯）	口縁部径10.5cm 器高※9.1cm 脚裾部径（15.8cm）	外面　浅黄橙（10YR8/4） 内面　にぶい黄橙（10YR7/3）	焼成　普通 胎土　砂粒含む	開脚。外面・内面ともに磨耗・剥離のため不明。脚裾上部に円形透孔0.7cm×0.7cm・推定3カ所有。	杯部～脚部	50%	8H包含-3	
59	高杯	口縁部径- 器高※14.1cm 脚裾部径-	外面　褐灰（10YR5/1） 内面　灰黄褐（10YR4/2）	焼成　良好 胎土　砂粒少量含む	棒状脚。外面ハケメ後にミガキ。内面ケズリ？・磨耗のため不明瞭。	脚基部	30%	8H包含-4	
60	器台	受部径- 器高※6.8cm 脚裾部径10.9cm	外面　にぶい黄橙（10YR7/3） 内面　にぶい黄橙（10YR7/3）	焼成　普通 胎土　砂粒少量含む	開脚。外面・内面ともに磨耗のため不明。	脚部	40%	8H包含-5	
61	鉢 （無頸鉢）	口縁部径（21.0cm） 器高※6.9cm 底部径-	外面　にぶい橙（5YR7/3） 内面　橙（5YR6/6）	焼成　普通 胎土　砂粒多量含む	外面口縁端部ナデ、体部磨耗のため不明。内面ハケメ・磨耗のため不明瞭。	口縁部～体部	20%	8H包含-6	
62	鉢 （くの字鉢）	口縁部径7.9cm 器高7.6cm 底部径2.5cm	外面　灰黄（2.5Y7/2） 内面　灰黄（2.5Y7/2）	焼成　良好 胎土　砂粒少量含む	外面口縁部ユビオサエ、体部ナデ・黒斑有。内面ナデ・ケズリ。底面ナデ。	ほぼ完形	95%	8H包含-7	
63	甕 （擬凹線甕）	口縁部径（19.6cm） 器高※7.3cm 底部径-	外面　淡赤橙（2.5YR7/4） 内面　橙（2.5YR7/6）	焼成　普通 胎土　砂粒含む	外面口縁部擬凹線文、頸部ナデ、胴部ハケメ。内面口縁部ユビオサエ、頸部ナデ、胴部ケズリ。	口縁部～胴部	5%	8I包含-1	
64	甕 （擬凹線甕）	口縁部径（15.4cm） 器高※8.2cm 底部径-	外面　浅黄橙（10YR8/3） 内面　灰白（10YR8/1）	焼成　普通 胎土　砂粒含む	外面口縁部擬凹線文・磨耗のため不明瞭、胴部ナデ・ハケメ、黒斑有。内面口縁部ヨコナデ・ハケメ・磨耗のため不明瞭。胴部ヨコナデ・タテケズリ。	口縁部～胴部	10%	8I包含-2	
65	高杯	口縁部径- 器高※8.3cm 脚裾部径-	外面　灰白（2.5Y8/2） 内面　灰白（2.5Y8/1）	焼成　普通 胎土　砂粒含む	外面磨耗のため不明、脚基下部に有稜有。内面脚部ヨコナデ。	杯底部～脚基部	50%	8I包含-3	
66	高杯 （小型高杯）	口縁部径10.5cm 器高※6.7cm 脚裾部径-	外面　明褐灰（5YR7/2） 内面　にぶい褐（7.5YR5/3）	焼成　普通 胎土　砂粒含む	推定開脚。外面ミガキ。内面ケズリ。脚裾上部に円形透孔0.7cm×0.6cm・3カ所有。	杯部～脚部	30%	8I包含-4	
67	高杯	口縁部径- 器高※7.6cm 脚裾部径（11.2cm）	外面　橙（2.5YR7/6） 内面　淡赤橙（2.5YR7/4）	焼成　普通 胎土　砂粒含む	外反脚。外面・内面ともに磨耗のため不明。内面にヒビ割れ有。	脚部	30%	8I包含-5	
68	高杯 （小型高杯）	口縁部径10.5cm 器高※2.2cm 脚裾部径-	外面　にぶい黄橙（10YR7/2） 内面　褐灰（10YR6/1）	焼成　普通 胎土　砂粒含む	外面・内面ともにミガキ。	杯底部	20%	8I包含-6	
69	器台	受部径- 器高※7.6cm 脚裾部径-	外面　にぶい黄橙（10YR7/2） 内面　にぶい黄橙（10YR7/3）	焼成　良好 胎土　砂粒含む	外面ミガキ。内面ケズリ。	受下部～脚基部	30%	8I包含-7	
70	蓋 （有鈕蓋）	つまみ部径3.2cm 器高5.3cm 口縁部径（14.8cm）	外面　浅黄橙（10YR8/3） 内面　明黄橙（10YR7/6）	焼成　不良 胎土　砂粒含む	外面磨耗のため不明。内面ミガキ・磨耗のため不明瞭。	つまみ部～口縁部	40%	8I包含-8	
71	蓋 （有鈕蓋）	つまみ部径2.7cm 器高※2.7cm 口縁部径-	外面　浅黄橙（10YR8/4） 内面　にぶい黄橙（10YR7/4）	焼成　良好 胎土　砂粒含む	外面・内面ともに磨耗のため不明。	つまみ部～口縁部	20%	8I包含-9	
72	蓋 （有鈕蓋）	つまみ部径2.1cm 器高※3.6cm 口縁部径-	外面　橙（5YR7/6） 内面　橙（5YR7/6）	焼成　良好 胎土　砂粒含む	外面つまみ部ユビオサエ、口縁部磨耗のため不明。内面ナデ。	つまみ部～口縁部	20%	8I包含-10	
73	蓋 （有鈕蓋）	つまみ部径4.4cm 器高※3.2cm 口縁部径-	外面　にぶい黄橙（10YR7/3） 内面　にぶい黄橙（10YR7/3）	焼成　良好 胎土　砂粒含む	外面つまみ部ユビオサエ、口縁部ハケメ。内面ケズリ。	つまみ部～口縁部	20%	8I包含-11	
74	鉢 （くの字鉢）	口縁部径（11.6cm） 器高※4.1cm 底部径-	外面　にぶい黄橙（10YR7/3） 内面　にぶい黄橙（10YR7/4）	焼成　普通 胎土　砂粒含む	外面磨耗のため不明。内面ナデ・ケズリ。	口縁部～体部	5%	8I包含-12	
75	甕 （有段甕）	口縁部径（22.3cm） 器高※5.6cm 底部径-	外面　浅黄橙（10YR8/4） 内面　浅黄橙（10YR8/4）	焼成　良好 胎土　砂粒多量含む	外面・内面ともに剥離・磨耗のため不明。	口縁部	5%	9H包含-1	
76	甕 （有段甕）	口縁部径（17.5cm） 器高※4.7cm 底部径-	外面　灰黄褐（10YR6/2） 内面　灰黄褐（10YR6/2）	焼成　良好 胎土　砂粒多量含む	外面・内面ともにヨコナデ・磨耗のため不明瞭。	口縁部	10%	9H包含-2	
77	壺 （短頸壺）	口縁部径（10.8cm） 器高※6.0cm 底部径-	外面　橙（7.5YR7/6） 内面　橙（7.5YR7/6）	焼成　良好 胎土　砂粒多量含む	外面・内面ともに磨耗のため不明、黒斑有。	口縁部	10%	9H包含-3	
78	壺	口縁部径- 器高※3.7cm 底部径7.0cm	外面　浅黄橙（10YR8/3） 内面　灰（7.5Y5/1）	焼成　良好 胎土　砂粒多量含む	底面中央凹み。外面ケズリ。内面ハケメ。底面中央ケズリ、他は未調整。	底部	10%	9H包含-4	
79	高杯	口縁部径- 器高※9.4cm 脚裾部径（13.9cm）	外面　浅黄（2.5Y7/3） 内面　浅黄（2.5Y7/3）	焼成　良好 胎土　砂粒少量含む	外反脚。外面脚裾部ミガキ・赤彩有、脚基部磨耗のため不明。内面ナデ？・磨耗のため不明瞭。脚裾上部に円形透孔0.8cm×0.8cm・3カ所有。	脚部	30%	9H包含-5	
80	器台	受部径- 器高※8.6cm 脚裾部径（10.6cm）	外面　灰黄（2.5Y7/2） 内面　浅黄（2.5Y7/3）	焼成　良好 胎土　砂粒含む	外面ナデ。内面脚裾部ナデ、脚基部ケズリ。	脚部	30%	9H包含-6	
81	蓋 （有鈕蓋）	つまみ部径3.5cm 器高※3.2cm 口縁部径-	外面　にぶい橙（7.5YR7/4） 内面　浅黄橙（7.5YR8/3）	焼成　良好 胎土　砂粒含む	外面・内面ともにミガキ。	つまみ部～口縁部	30%	9H包含-7	
82	甕 （受口甕）	口縁部径（15.8cm） 器高※4.3cm 底部径-	外面　橙（5YR7/6） 内面　浅黄（10YR8/3）	焼成　不良 胎土　砂粒多量含む	外面口縁部ミガキ、他は磨耗のため不明。内面磨耗のため不明。	口縁部	10%	9I包含-1	
83	甕又は壺	口縁部径- 器高※4.1cm 底部径5.2cm	外面　浅黄（10YR8/4） 内面　浅黄（10YR8/4）	焼成　普通 胎土　砂粒含む	手捏ね状。外面ナナメ・ヨコミガキ。内面ユビナデ・ユビオサエ。底面未調整。	底部	5%	9I包含-2	
84	器台	受部径- 器高※7.6cm 脚裾部径-	外面　灰白（10YR8/2） 内面　にぶい黄橙（10YR7/3）	焼成　普通 胎土　砂粒含む	外面磨耗のため不明。内面ケズリ？・磨耗のため不明瞭。	脚基部	30%	9I包含-3	
85	蓋 （有鈕蓋）	つまみ部径4.2cm 器高※2.0cm 口縁部径-	外面　黒褐（10YR3/1） 内面　浅黄橙（10YR8/6）	焼成　良好 胎土　砂粒多量含む	つまみ部中央凹み。外面つまみ部タテナデ。内面ナデ。	つまみ部	10%	12G包含-1	
86	須恵器 （高台杯）	口縁部径- 器高※2.4cm 底部径（7.4cm）	外面　灰白（5Y8/1） 内面　灰白（7.5Y7/1）	焼成　良好 胎土　砂粒含む	外面・内面ともに回転ナデ。底面回転ケズリ。	体部～底部	20%	SD01-1	
87	須恵器 （甕又は壺）	口縁部径- 器高※4.6cm 底部径（12.0cm）	外面　黄灰（2.5Y6/1） 内面　灰白（2.5Y7/1）	焼成　良好 胎土　砂粒含む	外面ケズリ・自然釉。内面回転ナデ。底面未調整。	底部	5%	SD01-2	
88	須恵器 （甕又は壺）	口縁部径- 器高※18.2cm 底部径-	外面　灰（10Y5/1） 内面　灰（N5/）	焼成　良好 胎土　砂粒含む	外面・内面ともにタタキ。	胴部	15%	SD01-3	
89	須恵器 （甕又は壺）	口縁部径- 器高※11.7cm 底部径-	外面　灰（7.5Y4/1） 内面　灰（7.5Y6/1）	焼成　良好 胎土　砂粒含む	外面・内面ともにタタキ。	胴部	5%	SD01-4	
90	須恵器 （甕又は壺）	口縁部径- 器高※6.2cm 底部径-	外面　灰（7.5Y5/1） 内面　灰（7.5Y6/1）	焼成　良好 胎土　砂粒含む	外面・内面ともにタタキ。	胴部	5%	SD01-5	
91	須恵器 （甕又は壺）	口縁部径- 器高※4.5cm 底部径-	外面　灰（N4/） 内面　灰（N6/）	焼成　良好 胎土　砂粒含む	外面・内面ともにタタキ。	胴部	5%	SD01-6	
92	石製腰帯具 （巡方）	縦幅3.6cm 厚さ0.6cm 横幅3.8cm	表面　うすい緑 裏面　うすい緑	石材　蛇紋岩	表面ミガキ・石材縞模様。裏面潜り穴四方に2対4カ所配置。重量23.3g。	完形	100%	SD01-7	
93	石器 （砥石）	長さ※10.0cm 厚さ1.1cm 幅※3.1cm	表面　灰白（5Y8/1） 裏面　灰白（5Y8/1）	石材　白色礫岩	平面長方形。表面・裏面・側面ともにタテ方向の磨り痕有、裏面・側面に比べて表面が磨り痕明瞭。重量54.9g。	不明	不明	SD01-8	
94	須恵器 （大甕）	口縁部径- 器高※6.7cm 底部径-	外面　灰（7.5Y6/1） 内面　灰（7.5Y6/1）	焼成　良好 胎土　砂粒含む	外面ヨコケズリ。内面口縁部ヨコケズリ、胴部カキ目。	口縁部～胴部	5%	SD03-1	
95	須恵器 （甕又は壺）	口縁部径- 器高※11.2cm 底部径-	外面　灰（5Y5/1） 内面　灰（5Y6/1）	焼成　良好 胎土　砂粒含む	外面・内面ともにタタキ。	胴部	5%	SD03-2	
96	須恵器 （甕又は壺）	口縁部径- 器高※7.3cm 底部径-	外面　オリーブ黒（7.5Y3/1） 内面　灰（7.5Y5/1）	焼成　良好 胎土　砂粒含む	外面・内面ともにタタキ。	胴部	5%	SD03-3	
97	須恵器 （台付甕）	口縁部径- 器高※2.4cm 底部径（5.0cm）	外面　灰（N4/） 内面　灰（N5/）	焼成　良好 胎土　砂粒含む	外面・内面ともに回転ケズリ。	底部	15%	表採-4	
98	須恵器 （高台杯）	口縁部径（11.0cm） 器高3.9cm 底部径（7.1cm）	外面　灰（N4/） 内面　灰（N5/）	焼成　良好 胎土　砂粒含む	外面・内面ともに回転ナデ。	口縁部～底部	10%	表採-3	

3号溝（SD03、第11図、第15図94～96、写真図版５、写真図版８－94～96）

調査区の東部、4I・5I・5Jグリッドに位置する。SD01と同じく、基本層序Ⅲ層上面から構築された遺構である。調査区を南北にまたぐ形で検出した。形状は直線的（北西から南東方向）で、北壁での検出幅は約1.90m、深さが約0.70m、断面形は幅広のU字状で、底面の幅は約0.90～1.10mを測る。堆積土の観察から、完全に埋没するまでに、５回以上にわたっての流水の過程が窺える。堆積土中や底面から須恵器破片（94～96）、底面から鉄滓1点が出土している。

94は大甕の口縁部～胴部、95・96は甕又は壺の胴部で内外面ともにタタキ痕がある。

遺構外（第15図97・98、写真図版８－97・98）

97・98は表面採集による須恵器破片である。97は台付甕の底部、98は高台杯の口縁部～底部である。

(3) 近世以降

1号自然流路（NR01、第９図、第12図－３、写真図版５、写真図版６－３）

調査区の東部、5I･5J･6I･6Jグリッドに位置する。基本層序Ⅲ層上面からの遺構である。調査区を南北にまたぐ形で検出した。蛇行して２回ほど二股に分岐しながら南から北へと流れたものと考えられる。幅は約0.20～0.35mで、底面には流水の痕跡が明瞭に残る。土器破片（３）及び須恵器破片が出土しているが、流水に混入したものと考えられる。

３は甕又は壺の底部で、月影式に相当する。

(4) 時期不明

10号溝（SD10、第６図、写真図版２）

調査区の中央部北側、7I・8Iグリッドに位置する。北側への遺構の広がりが見え、全体像は不明である。形状は直線的で、検出長は約2.00m、幅は約0.32m、検出面からの深さは約0.10m、断面形はＵ字形で、底面に凹凸は見られない。切り合いからSD09よりも新しい時期と考えられる。遺物の出土はなかった。

11号溝（SD11、第６図、写真図版２）

SD10と同じく、7I・8Iグリッドに位置する。湾曲する水溜まりのような形状であり、長さは約2.15m、幅は約0.18m、北側では幅は約0.55mになる。検出面からの深さは約0.13mで、底面には凹凸がみられる。形状から自然流路であった可能性も考えられるが、詳細は不明である。切り合いからSD09よりも新しい時期と考えられる。遺物の出土はなかった。

第４章　総　　括

調査の結果、弥生時代後期終末～古墳時代前期初頭と推定される掘立柱建物２棟（SB02は柵などの可能性もある。）、溝９条、竪穴建物１棟、土坑５基、ピット22基、不明遺構１基、奈良～平安時代と推定される溝２条、近世以降と推定される自然流路１条、時期不明の溝２条、ピット１基の遺構を確認した。概ね、弥生時代後期終末～古墳時代前期初頭、奈良～平安時代の遺構・遺物に大別でき、弥生時代後期終末～古墳時代前期初頭の土器（甕・壺・高杯・器台・装飾壺・鉢・蓋など）破片は、包含層から多量に出土している。弥生時代後期終末～古墳時代前期初頭の土器は、概ね、月影式段階に並行する様相を示すものである。

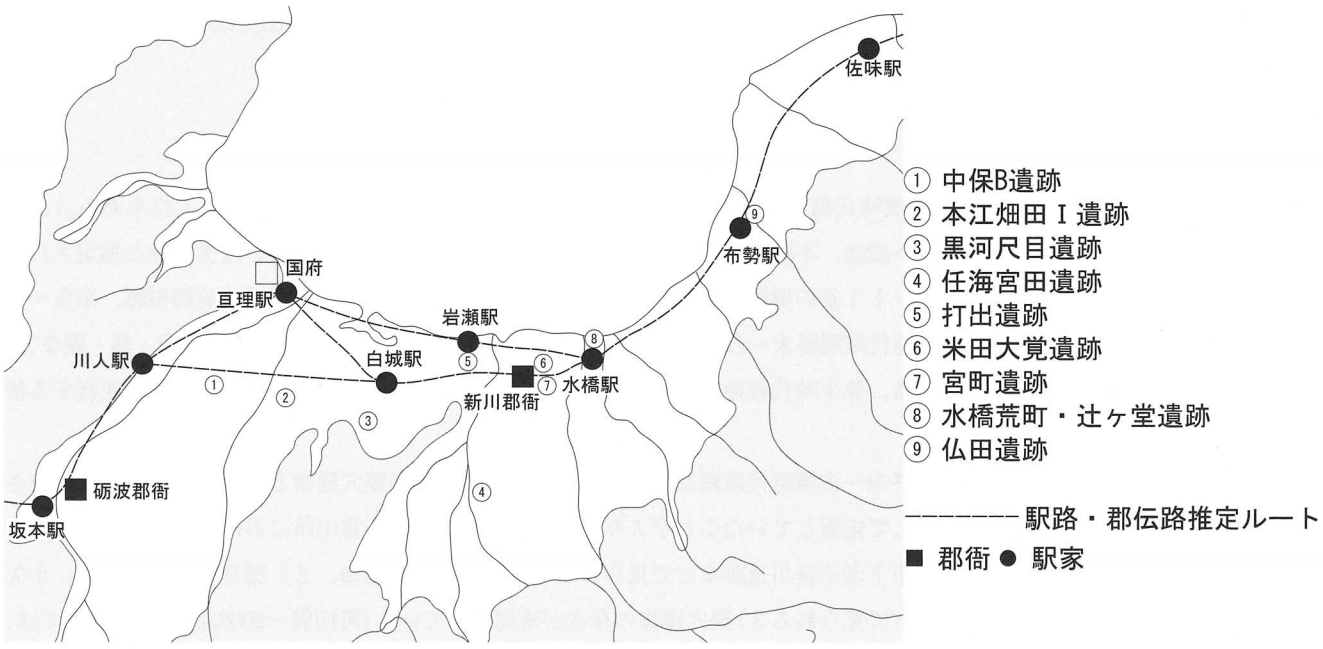
本江畑田Ⅰ遺跡では、弥生時代後期終末～古墳時代前期初頭にかけて、掘立柱建物や竪穴建物といった建物群から構成される集落が営まれ、人々の生活場所として定着していたことがより一層明らかとなった。富山県における弥生時代後期終末の集落を構成する建物としては、高岡市下老子笹川遺跡などで見られる１）周溝をもつ建物、２）掘立柱建物のほか、小矢部市平桜川東遺跡や富山市打出遺跡などで見られる３）竪穴建物の存在が確認されている（町田賢一2008）。今回の調査では、SB01やSI01といった掘立柱建物や竪穴建物の存在が確認でき、SX01は周溝をもつ建物である可能性が示唆される。

これら建物群のなかで特に注意される遺構は、SI01である。SI01は掘り方を持ち、その上層に床面をもつ貼り床構造（壁周溝無し）と考えられる。建物を取り囲む周溝や周堤帯の存在は、堆積土断面の観察からも確認することはできなかったが、SI01の周囲を取り囲むように一定範囲での遺構の空白帯が認められることから、この空白帯を含めた建物構造であったこと

が予想される。上屋構造は、柱穴１カ所を確認したのみで、建物の約半分が調査区域外であること、試掘トレンチによって寸断されていることから、何本柱構造の上屋となるかは不明であるが、上屋材と推定される植物痕（材木）が黒色土によるサンドイッチ状の堆積（A-A′間）で確認されており、土屋根構造であった可能性も考えられる。SI01は、富山県における弥生時代後期後半～古墳時代前期にかけての竪穴建物の分析を実施した鍋谷仁美氏（富山市教育委員会2006）によるＣ類（平面隅丸方形）又はＤ類（平面隅丸長方形）の小型（辺3.00～5.00m）又は中型（辺6.00～8.00m）住居に該当し、時期的（月影Ⅱ式並行）にも富山県における竪穴建物の推移と適合する（高橋浩二2005）。

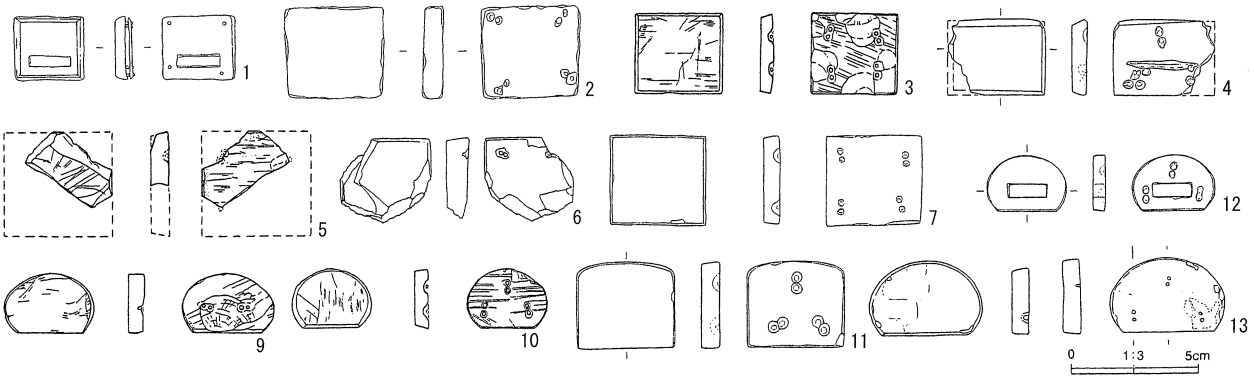
SI01とSD09・SD12といった区画的な溝との位置関係やSI01とSB01といった建物遺構の位置関係などは、弥生時代後期終末～古墳時代前期初頭の集落構成の一端を明示するものと考えられ、過去３次におよぶ調査の成果と合わせて、本遺跡における弥生時代後期～古墳時代前期にかけての集落構造とその変遷過程を考える上で大きな成果となった。

奈良・平安時代における遺物としては、須恵器（大甕・甕又は壺など）破片のほか、砥石や鉄滓、巡方（石製腰帯具）が出土しており、SD01から出土した巡方は特質される。腰帯具は、奈良～平安時代前期にかけての律令的身分秩序を表した衣服令の成立による身分表象で、在地社会における社会的・経済的に優位な地位（位階及び官職）にあった郡司層や富豪層の存在を示すものである（田中広明2003）。富山県で出土した主要な古代腰帯具（銙帯・石帯）は、第17図に示したとおりである。本遺跡出土の巡方は、高岡市中保Ｂ遺跡出土の巡方と同様に大きいもので、安達志津氏（1997）による分類④（3.50～3.75cm）グループに位置づけられる。一方、列島規模での腰帯具の分析を実施した田中広明氏（2003）による石製巡方（潜り穴）Ⅳ期・無孔型式に該当する。田中広明氏の分析によれば、無孔の石製腰帯具は8世紀末頃に出現し、11世紀まで継続し、その最盛期は10世紀前半に求められる。巡方の出土は、本遺跡をめぐる郡司層や富豪層の存在を示すもので、本遺跡の北東約１kmには、奈良・平安時代の掘立柱建物８棟（総柱建物２棟、側柱建物６棟、うち１棟は周囲に溝を巡らした北東面に庇を持つ8世紀代の側柱建物）の存在が確認されている射水市二口油免遺跡が所在しており、本遺跡と併せた理解が可能である。

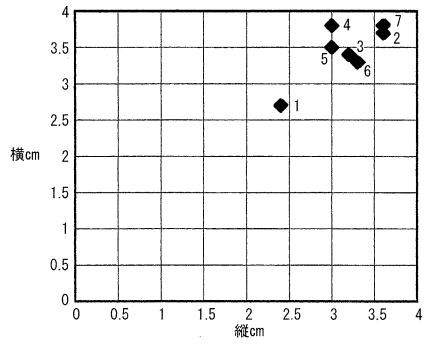


第15図　富山県の古代腰帯具出土遺跡の位置（富山市教育委員会2006・182頁を元に作成）

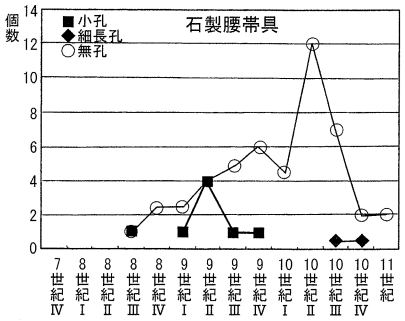
No.	遺　跡　名	出土遺構	種別	孔	材　質	縦×横　cm	厚さcm	鋲	潜り穴
1	高岡市中保B	SK01	巡方	小孔	銅　製	2.4 × 2.7	0.70	4	—
2	高岡市中保B	水路	巡方	無孔	花崗岩	3.6 × 3.7	0.70	—	4
3	富山市米田大覚（A地区）	包含層	巡方	無孔	粘板岩	3.2 × 3.4	0.50	—	4
4	富山市任海宮田（B6地区）	包含層	巡方	（無孔）	蛇紋岩	3.0 × 3.8	0.60	—	3
5	富山市宮町	中世井戸	巡方	（無孔）	粘板岩	(3.0)×(3.5)	0.75	—	(4)
6	射水市黒河尺目	包含層	巡方	（無孔）	蛋白石	(3.3)×(3.3)	0.90	—	(4)
7	射水市本江畑田Ⅰ	SD01	巡方	無孔	蛇紋岩	3.6 × 3.8	0.60	—	4
8	魚津市仏田	—	巡方	無孔	—	—	—	—	4
9	富山市水橋荒町・辻ケ堂	包含層	丸鞆	無孔	粘板岩	2.3 × 3.6	0.65	—	2
10	富山市米田大覚（B地区）	包含層	丸鞆	無孔	粘板岩	2.3 × 3.2	0.60	—	3
11	富山市任海宮田（B6地区）	SK1229	丸鞆	無孔	マイクログラニット	3.8 × 3.4	0.70	—	3
12	富山市任海宮田（B13地区）	SI32	丸鞆	小孔	蛇紋岩	2.3 × 3.3	0.50	—	3
13	富山市打出（A地区）	旧河川内	丸鞆	無孔	蛇紋岩	2.9 × 4.3	0.80	—	3
14	魚津市仏田	—	丸鞆	無孔	—	—	—	—	3



1・2中保B　3米田大覚（A）　4・11任海宮田（B6）　5宮町　6黒河尺目　7本江畑田Ⅰ
9水橋荒町・辻ケ堂　10米田大覚（B）　12任海宮田（B13）　13打出（A）　（1銅製、2～7・9～13石製）



富山県出土の巡方の大きさ比較
1・2中保B　3米田大覚　4任海宮田　5宮町　6黒河尺目　7本江畑田Ⅰ



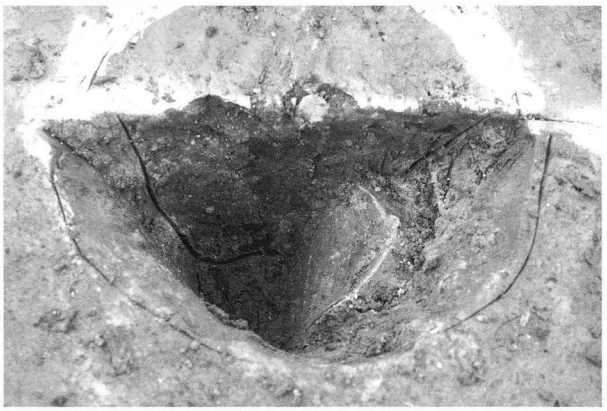
石製腰帯具の推移（田中広明2003・33頁）

第16図　富山県出土の主要な古代腰帯具（銙帯・石帯）

《参考・引用文献》

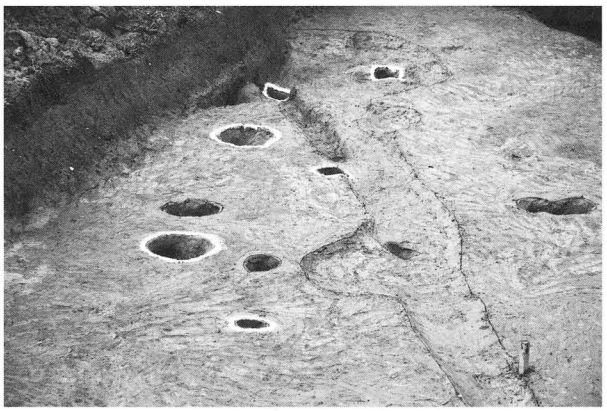
麻柄一志　1992「土屋根の竪穴住居」『魚津市立博物館紀要』第３号　13-33頁　魚津市教育委員会
安達志津　1997「北陸における銙帯・石帯」『富山市考古資料館報』No.31　2-7頁　富山市考古資料館
射水市教育委員会　2007『本江畑田Ⅰ遺跡発掘調査報告（3）』
小矢部市教育委員会　1979『富山県小矢部市平桜川東遺跡発掘調査概要』
小矢部市教育委員会　1980『富山県小矢部市平桜川東遺跡Ⅱ』
（財）富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所　2004『黒河尺目遺跡・黒河中老田遺跡発掘調査報告』
（財）富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所　2006『下老子笹川遺跡発掘調査報告』
（財）富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所　2007『任海宮田遺跡発掘調査報告Ⅱ』
（財）富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所　2009『とやま発掘だより―平成20年度発掘調査速報―』
（財）富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所　2009『平成20年度埋蔵文化財年報』
大門町教育委員会　1997『本江畑田Ⅰ遺跡発掘調査報告』
大門町教育委員会　2005『本江畑田Ⅰ遺跡発掘調査報告（2）』
大門町教育委員会　1998『二口油免遺跡発掘調査概要』
大門町教育委員会　1998『二口油免遺跡第Ⅱ次発掘調査概要』
大門町教育委員会・㈱中部日本鉱業研究所　1998『二口油免遺跡Ｂ地区発掘調査報告』
大門町教育委員会　2005『二口油免遺跡発掘調査報告（4）』
高岡市教育委員会　2002『中保Ｂ遺跡調査報告』
高橋浩二　2005「富山県における高地性集落の解体と古墳の出現」『新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現』第１分冊　207-220頁　新潟県考古学会
田嶋明人　2007「法仏式と月影式」『石川県埋蔵文化財情報』第18号　55-80頁　（財）石川県埋蔵文化財センター
田中広明　2003『地方の豪族と古代の官人』　柏書房
富山市教育委員会　2004『奈良時代の富山を探る』
富山市教育委員会　2006『富山市打出遺跡発掘調査報告書』
町田賢一　2008「富山県の家と村」『平成20年度環日本海文化交流史調査研究集会・弥生時代の家と村』　61-77頁　（財）石川県埋蔵文化財センター

SB01（北東から）



SB01-P6遺物出土状況（南から）

SB01-P6（南から）



SB02（北東から）

SD02（南から）

SD08（北西から）

SD09・10・11・SK03・04・05（北西から）

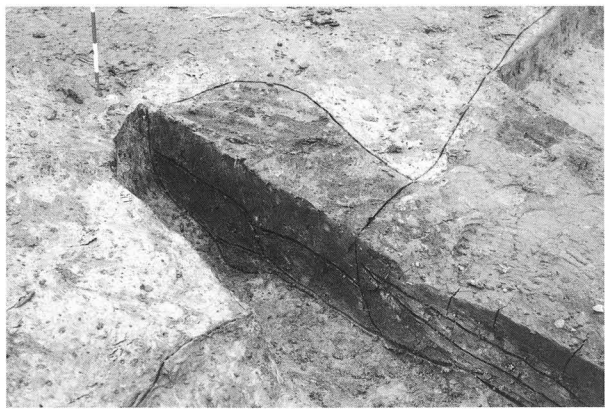
SD12（北東から）

SD12（西から）

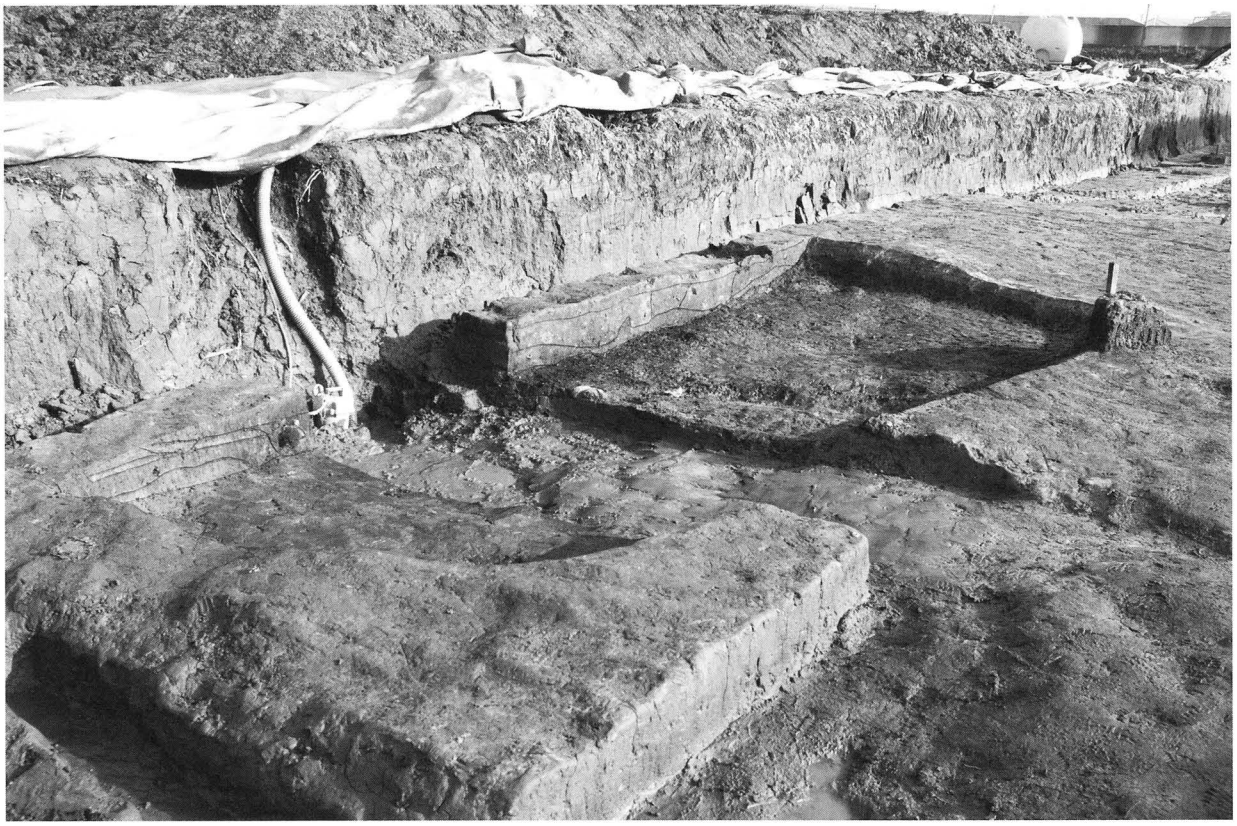
SD13（北東から）

SD14（北西から）

SK01（西から）



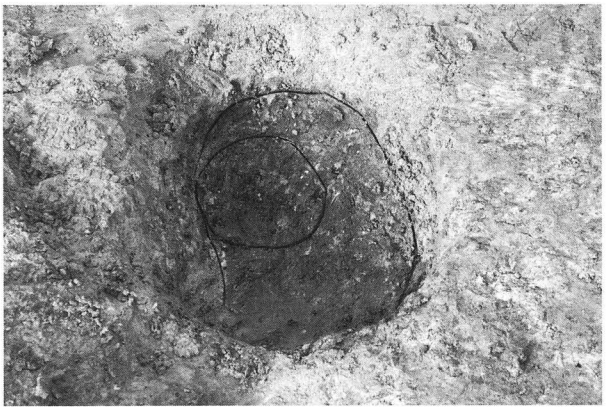
SK04断面（南から）



SI01（南西から）

SI01遺物・炭化物出土状況(1)（南西から）
〔左:土器(25)・右:土器(26)〕

SI01遺物・炭化物出土状況(2)（南西から）
〔土器(26)〕

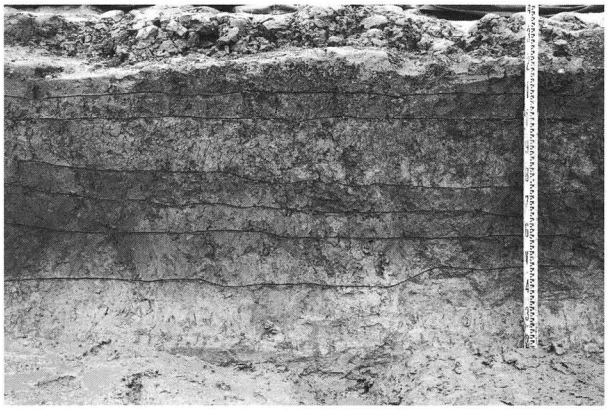


SI01P1検出状況（南から）

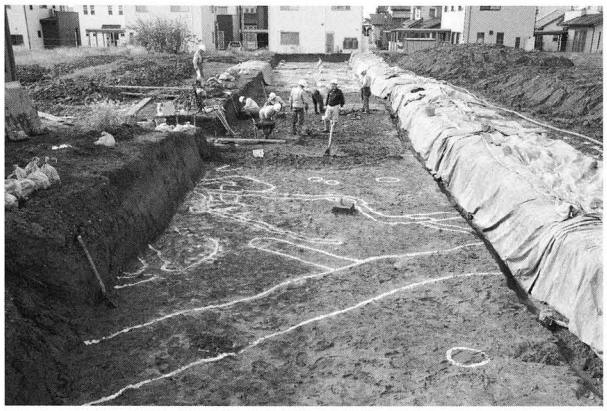
SI01掘り方（南西から）

SP04・05（南から）

SX01（南西から）



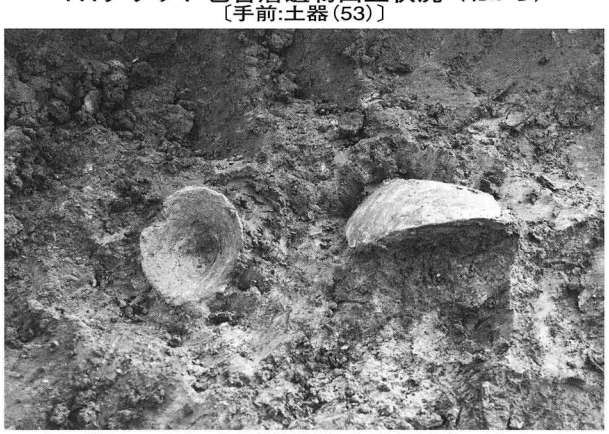
基本層序B地点（南から）



包含層掘削・遺構検出状況（東から）

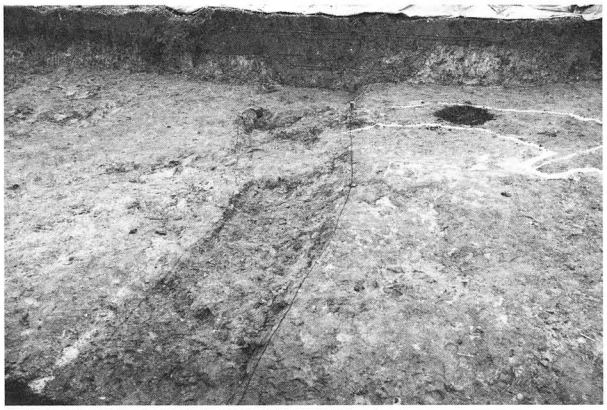
7Hグリッド包含層遺物出土状況（北から）
〔手前:土器(53)〕

7Iグリッド包含層遺物出土状況（北から）
〔土器(55)〕

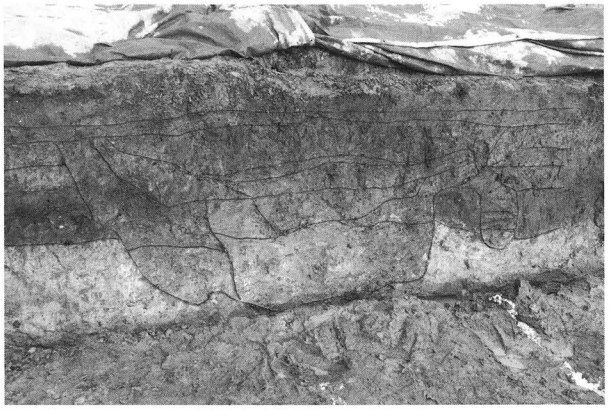


8Hグリッド包含層遺物出土状況(1)（北から）
〔左:土器(60)〕

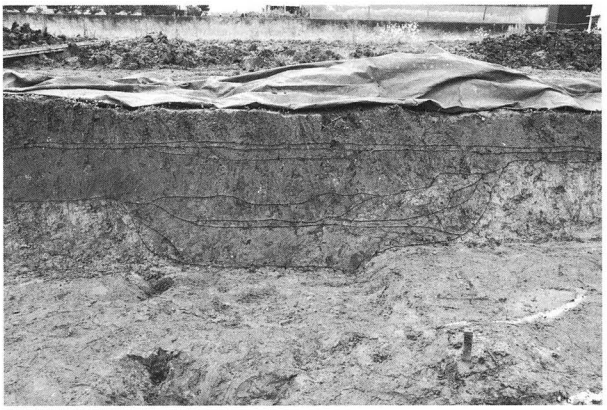
8Hグリッド包含層遺物出土状況(2)（東から）
〔土器(62)〕



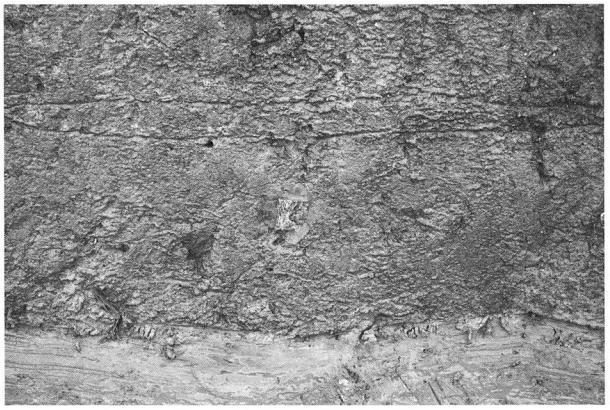
SD01（北から）



SD01断面（北壁）（南から）

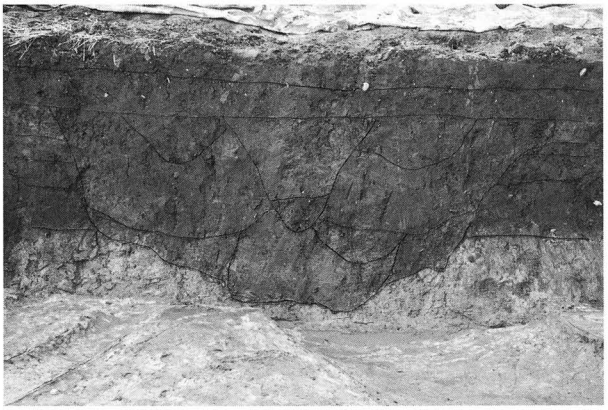


SD01断面（南壁）（北から）



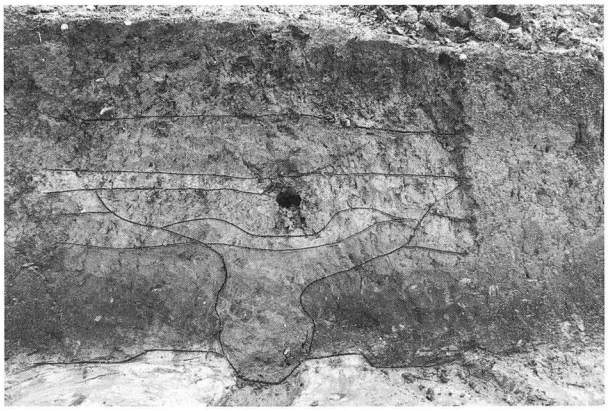
SD01巡方出土状況（北から）
〔巡方（92）〕

SD03（北西から）

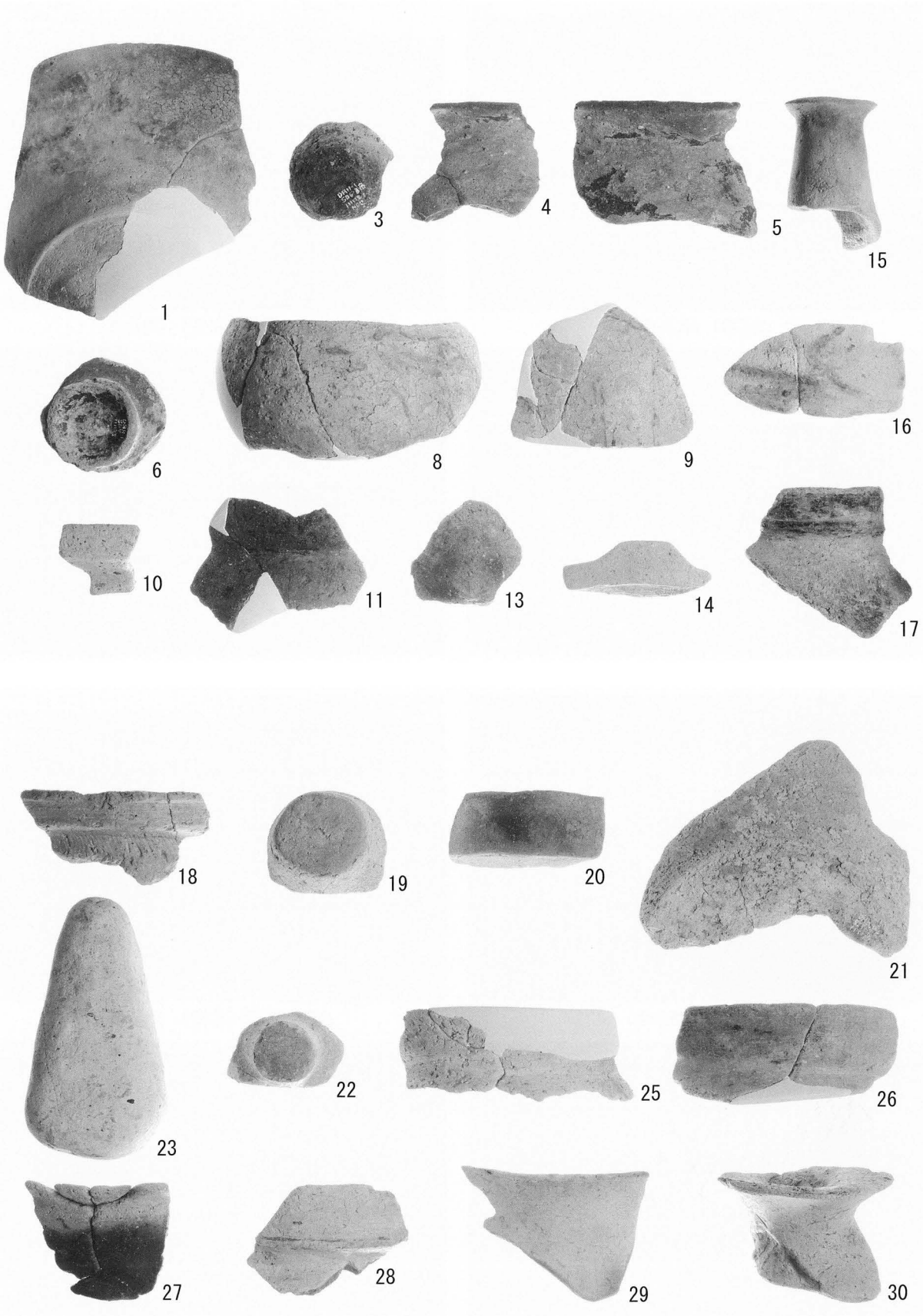


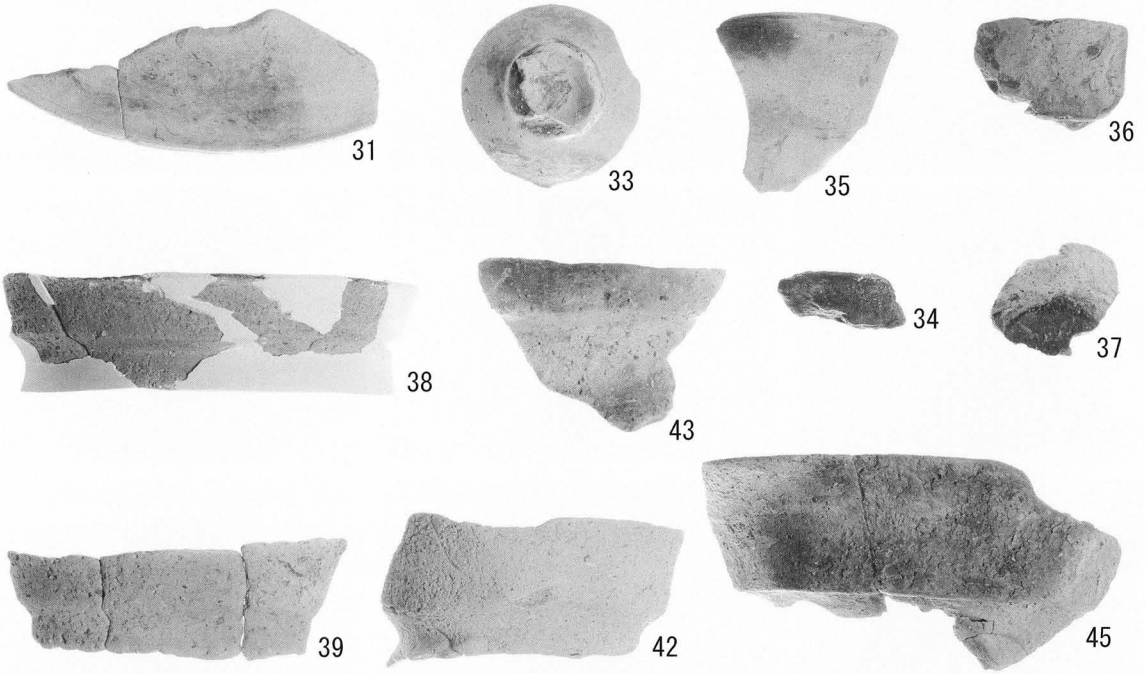
SD03断面（北壁）（南から）

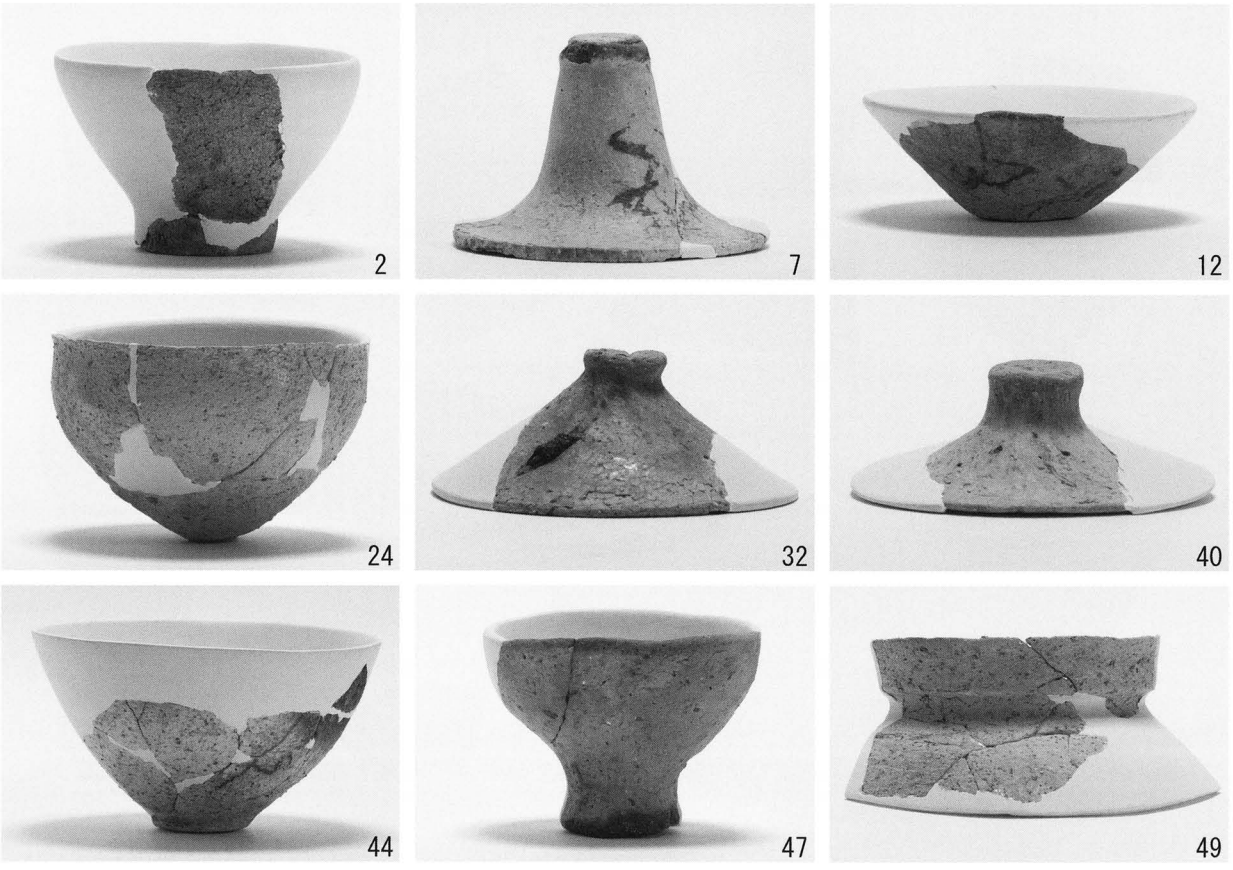
SD03遺物出土状況（西から）
〔須恵器（95）〕

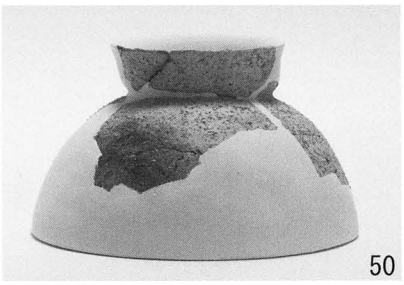


NR01断面（南壁）（北から）

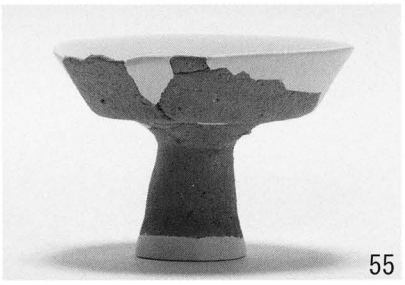

1
3
4
5
15
6
8
9
16
10
11
13
14
17
18
19
20
21
23
22
25
26
27
28
29
30


31
33
35
36
38
34
37
43
39
42
45

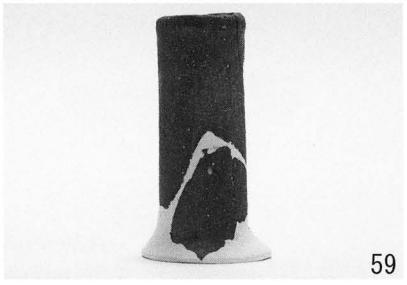

2
7
12
24
32
40
44
47
49


50

52


55

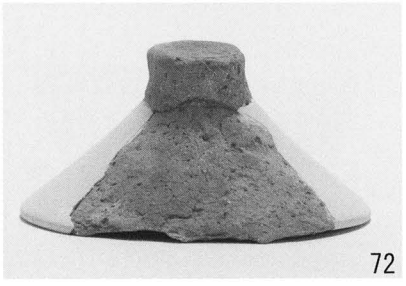
58


59

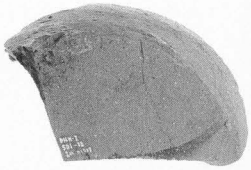
62

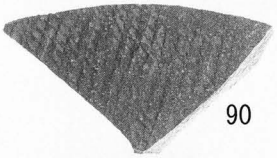
64

66


72

86

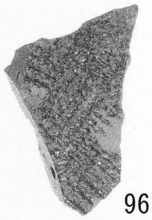

87


90

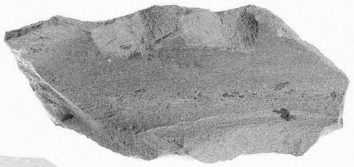
91

89

93

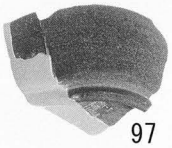

96

88


94

95

98


97

報告書抄録

ふりがな	ほんごうはたけだいちいせきはっくつちょうさほうこく
書　　名	本江畑田Ⅰ遺跡発掘調査報告（4）
副 書 名	分譲住宅造成に伴う埋蔵文化財発掘調査
編著者名	尾野寺克実　金三津英則（射水市教育委員会）　新宅輝久　小林修（株式会社アーキジオ）
編集機関	射水市教育委員会　株式会社アーキジオ
所 在 地	〒933-0292　富山県射水市加茂中部893番地　TEL 0766－59－8093
発行年月日	西暦2012年６月29日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北　緯 °　′　″	東　緯 °　′　″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
本江畑田Ⅰ遺跡（ほんごうはたけだいちいせき）	富山県射水市（とやまけんいみずし） 大門本江（だいもんほんごう）	211 （382）	411 （057）	36度 43分 09秒	137度 03分 08秒	20111017 ～ 20111217	310㎡	分譲住宅造成に伴う埋蔵文化財発掘調査

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	
本江畑田Ⅰ遺跡	集落	弥生・古墳	掘立柱建物 竪穴建物 溝 土坑	弥生土器 土師器	１号溝から巡方（石製腰帯具）１点が出土している。
		古　代	溝	須恵器 巡方	

要　　約	分譲住宅造成に伴う埋蔵文化財発掘調査で、遺構・遺物の中心は、弥生時代後期終末～古墳時代前期初頭、奈良～平安時代である。弥生時代後期終末～古墳時代前期初頭にかけて、包含層から甕や高杯・蓋などの土器破片が多量に出土し、掘立柱建物及び竪穴建物によって構成される集落が営まれていたことが明らかになった。奈良～平安時代の溝から、巡方（石製腰帯具）１点が出土している。

※コード欄の（　）内の数字は、『富山県埋蔵文化財包蔵地地図』記載の旧市町村遺跡番号を示す。

本江畑田Ⅰ遺跡発掘調査報告(4)
— 分譲住宅造成に伴う埋蔵文化財発掘調査 —

平成24年6月29日発行

編集　射水市教育委員会　株式会社アーキジオ
発行　射水市教育委員会
〒933-0292　富山県射水市加茂中部893番地
TEL 0766－59－8093
印刷　とうざわ印刷工芸株式会社